ヌエバ

NUEVA

革新の42枚パネル

日本リーグ唯一の公式試合球

あなたなら、どうたたかう・・・



国際公認球 | 検定球

42H301WBK
42H201WBK・WR
●手縫い ●天然皮革 ●42枚パネル

SBHB作戦盤



検定球

HSH1
●手縫い ●天然皮革 ●1号球

小学校試合球



国際公認球 | 検定球

42H310WBK・42H210WBK/WR
●手縫い ●天然皮革 ●42枚パネル

全国中学校大会試合球

molten®

株式会社 モルテン

東京本社　東京都墨田区横川5丁目5番7号　TEL(03)3625−7581㈹
東京・大阪・名古屋・福岡・広島四国・仙台・札幌・リノUSA・デュッセルドルフG

巻頭言



21世紀に向けた国際の充実

日本ハンドボール協会常務理事

喜井　美雄

20世紀の終盤、ソビエト・ユーゴ・チェコ等の社会主義崩壊後から国家の分裂、イラクへの米英軍の空爆、インド・パキスタンの核実験、東南アジア諸国の経済破綻、ヨーロッパの通貨統合に向けた動き、21世紀を間近に控え近年の国際社会は激しい変動をしております。その影響を受け世界経済はもとより、国内経済も厳しい時代を迎えております。

一方、日本のハンドボール界は、一昨年多くの障害を乗り越えて一丸となって大成功を収めた熊本男子世界選手権を活かし、益々の発展を期しているところであります。

しかし、いつまでも熊本の影を追いかけていたのでは、今後の日本ハンドボール界の発展はないと考えます。少年少女に夢を持たせ、本当にハンドボールを愛する人達や協力する人達に報いるためにも、目標をしっかり定めて新たな取り組みと充実を図らなければなりません。そのためには、日本のハンドボールがメジャーになることが必要であります。

全日本の男女が世界の舞台（世界選手権・オリンピック）にたち上位入賞を果たすことであります。無論、ジュニア・学生・シニアの計画的で効率的な合同合宿練習による強化は、当然のことです。

今後は、

(1)日本で世界大会のアジア予選を開催に向けての働きかけ

(2)アジアハンドボール連盟（ＡＨＦ）正常化に向けての働きかけ

(3)選手・コーチ・レフェリーの国際交流体制づくり

この三本の施策で取り組みをして行きます。

第一に、世界大会（世界選手権・オリンピック）アジア予選の日本開催については、男子ジュニア・男子シニアでも分かるように、中東地区や中東の影響を大きく受ける地域で大会を開催すると、レフェリー・オフィシャル・組み合わせ・大会日程等、中東のための大会になっています。これでは世界大会への出場の可能性が非常に低くなる。これを解決するためには、日本開催が必須条件であります。２０００年のシドニーアジア予選日本開催に向け、ＡＨＦ・ＩＨＦ及びＩＯＣに強力に働きかけていきます。

第二に、ＡＨＦ正常化については、昨年のバーレーン男子ジュニアアジア選手権等、中東で開催される大会での混乱（観客と選手との暴行・選手のレフェリーへの暴行・会長によるレフェリーの直前変更）や、アジア大会がエジプト世界選手権アジア予選を兼ねていましたが、アジア大会直前での変更などで分かるように、現在のＡＨＦはスポーツとは言えません。これは、ＡＨＦの定義・規定・運用が機能していないためであり、不備・不足・不適された事柄の改定・提議を、日本が主導で進めていきます。

第三に、国際交流については、従前から個人・大学・企業において短期・単発的に、交流がされていたがシステム化が遅れていました。これが現在の日本の競技力低迷に繋がっていると言っても過言ではない。５年後・10年後を見据えて、早急の具体的実行計画と体制づくりを進めていきます。

最後に、21世紀に向け残り僅かとなった本年、我々自身が意識を変えて行き実行し、結果を出すことが、将来の日本ハンドボール界発展に繋がると肝に銘じ進めます。格段のご協力を賜りますようお願い申し上げます。

協会だより

平成10年11月度 常務理事会

日 時
11月7日（土）
10時00分～16時00分

場 所
東京体育館 第3研修室

出席者
中澤副会長、市原専務理事
常務理事8名、事務局2名
＊10時00分より12時00分まで各本部会議を開催

■総務本部関連事項

1 新会員登録制度について
仮称「がんばれハンドボール10万人会」について、ファミリー会員3000円、グランド会員（旧賛助会）10000円に分け、募集経費500円を加盟団体に還元することを承認。
また、チーム登録増加の一環として小学生チームにも年1回、小学生大会記載の号を無償配布することを決定。

2 熊本国体ブロック割り当てについて
第54回国民体育大会参加チームブロック割当表について承認した。

3 第5回アジア女子ジュニア選手権大阪大会決算赤字補填について
決算書による補填を承認した。

4 今後のAHF対応について
世界選手権東アジア地区予選に関して、アジア競技大会時に開催するAHF総会に、（1）エジプト男子世界選手権予選の直前変更について、（2）中東アジア地域で開催された大会での暴行問題に対しての対応について、（3）大会参加登録後の辞退について、（4）シドニーオリンピック男女アジア予選について、を日本、韓国、中国の3カ国で共同提議することを承認。

5 荒川清美氏を偲ぶ会について
荒川清美氏を偲ぶ会の次第について検討。

6 役員ユニフォームについて
全日本総合大会に着用できるよう発注する。費用は個人負担とすることを決定。

7 アジア競技大会壮行会について
'98ジャパンカップ愛知大会を、壮行会および試合として実施することを申し合わせた。

8 平成10年度読売スポーツ賞候補について
11月22日開催の全国理事会にチームもしくは選手1名を推薦し決定することを決定。

9 日本協会公認会計士について
日本協会公認会計士の後任について推薦があり、他候補がなければ依頼を進めることで了承。

10 一般会計中間報告
10月30日現在の一般会計収支について、補正予算をたて全国理事会で承認を受けることとした。今期は事業の拡大により、繰越金が減少するとの報告があった。

11 全国中学校大会の補助金増額申請について
現状の中学校登録および他事業等を含め、中体連と協議することを申し合わせた。

■競技本部関連事項
東京体育館を利用してのフェスティバル開催計画について継続検討。協賛スポンサーの協力を得られれば、予算を減額することで了承。
スポンサー協賛依頼に際しての、日本協会概要を早急に作成することとした。

■強化事業本部
2000年シドニーオリンピックアジア地区予選について、実行委員会を設置するため準備委員会を発足し、概要を纏めることとした。

■報告了承事項

1 総務本部
スポーツ安全協会への役員登録について、了承した。

2 競技本部
（1）第53回国民体育大会結果報告
（2）ワールドゲームズ秋田大会で、ビーチハンドボールが公開競技に決定したことを報告。

3 強化事業本部
（1）'99男子世界選手権東アジア地区予選結果報告
（2）「サンクス」のスポンサー契約について、進捗状況を報告。
（3）'98ジャパンカップについて11月22日～25日開催、観戦依頼。
（4）競技者資格ユニフォーム広告について、規程を改定することについて協議することを了承。
（5）広告ボード規格について、各大会で活用できるよう実施する。
（6）日本リーグ前期の報告。第24回大会実施計画報告。

4 その他
神田清氏の叙勲受賞報告

【東アジア競技大会の大阪開催決定】

第３回東アジア競技大会の大阪開催が正式決定しました。
期日：平成13年５月19日（土）～27日（日）
ハンドボール会場：大阪府舞洲アリーナ
正式に採用されたのは以下の15競技です。
陸上、水泳、サッカー、ボクシング、バレーボール、体操、バスケットボール、レスリング、ウェイトリフティング、ハンドボール、ソフトテニス、柔道、ボーリング、武術太極拳、テコンドー

【ビーチハンドボール：2001ワールドゲームズ公開競技正式採用決定】

2001年ワールドゲームズ秋田大会の正式種目としては採用が見送られていたビーチハンドボールは、平成10年11月10日、公開競技として採用されたことが日本協会に通知された。

ワールドゲームズの公開競技は、合気道、相撲、女子綱引き、ゲートボールにビーチハンドボールが加わり５競技となった。

【小学校指導要領案にハンドボール採用】

平成10年11月18日、文部省は小、中学校の新指導要領案を発表した。これは12年度より移行措置に入り、14年度から全国の小、中学校の全学年で実施される。

この中で「ハンドボール」が小学校５、６年生のボール運動として加えることができるようになった。

従来はバスケットボール、サッカー、ソフトボールに限定されていたものが、今回、ハンドボールとソフトバレーボールが付け加えられた。ハンドボールが小学校の教材として採用されたのは初めてであり、背景には日本協会・学校体育ハンドボール検討委員会の活動によるところが大きい。

【平成10年度レフェリー・シンポジウム開催】

平成10年度レフェリー・シンポジウムの開催が決定しました。
日時：平成11年２月27日（土）10時30分～　東京体育館第１研修室
28日（日）時間未定、場所：国立オリンピック記念青少年総合センター
内容：日本リーグの試合を見ながらの質疑応答、その他
第２日目にフリートークの時間を設けます。時間は一人10分間で、発言希望者は事前に200字程度の発言要旨を提出下さい。また、平成10、11年度登録済のA、B級審判員には別途案内書を直接発送します。
なお、宿泊については各自でご用意下さい。
詳しくは、審判委員会総務委員　北村（茨城県立中央高等学校：0299―46―1321）まで。

【98日本ハンドボールリーグ　テーマソングがリリース】

98日本ハンドボールリーグのテーマソングでmyageの歌う「FINAL　STAR」(作詞mai　kanamatsu　作曲eiji toyosawa)が１月21日リリースされます。

myageは1997年横浜で結成。ダンサンブルでポップなサウンドとソウルフルなヴォーカルが融合したマイエイジサウンドは、親しみやすくカッコイイというまさにJ―POP王道まっしぐらの音楽を追究しています。ヴォーカルのマイは、ジュニアオリンピックに出場したこともあるスポーツウーマン（水泳）でもあり、キーボードのエイジは、横浜国大でポップスのヒットパターンを徹底的に研究したというインテリ。二人が作り出す音楽は近い将来きっと多くの人達に支持されると確信しています。

なお、曲は今期リーグ会場で演奏されています。

【大阪高体連のホームページができました】

大阪高体連ハンドボール部がホームページを開設しました。アドレスは、
http：／／www2u.biglobe.ne.jp／～osk―hb／
内容は、大阪地区の大会結果、全国大会の組み合わせ及び結果、各チームのプロフィールなど。

第50回全日本総合選手権大会



男子はストックラン、ヴォルの活躍で本田技研が12年ぶり2回目の優勝

女子はオムロンが2年ぶり8回目の優勝

50回目を迎えた全日本総合選手権大会は、平成10年12月23日（水）から26日（土）まで、グリーンアリーナ神戸を主会場に、神戸市立中央体育館とで熱戦が繰り広げられた。全日本総合は50回を節目に見直しが行われ、日本リーグチームに各代表チームが挑戦をするという構図で行われた。

男子で、香川クラブが日本リーグ1部のトヨタ車体を破り2回戦へと駒を進めたが、湧永製薬の厚い壁の前に敗れ去った。女子では、日本リーグ2部のブラザー工業がOSAKI　OSOLを破って勝ち上がった。日本リーグ1部勢が敗れたのはこの2試合のみで、残りのゲームはすべて日本リーグ1部勢が勝ち上がった。

大会の流れは、やはり日本リーグ上位勢が強く順当に勝ち上がった。準決勝男子では、前回の決勝対決であった湧永製薬対中村荷役、大同特殊鋼対本田技研、女子では、オムロン対イズミ、日立栃木対立山アルミの対戦となった。4連覇を目指した中村荷役は、湧永製薬の前に敗れ去り、湧永製薬が前年度決勝の雪辱を果たし2年連続の決勝進出をした。一方の本田技研も、新加入のストックラン、ヴォルの活躍で高得点をマークし、大同特殊鋼を破り決勝へと駒を進めた。

女子では、オムロンがGK山口の好セーブで決勝進出を果たした。一方の日立栃木はメンバーが10人となった中で苦しい戦いを強いられながら決勝に勝ち上がった。

男子決勝では、ストックラン、ヴォルの2人で15得点という活躍で、食い下がる湧永製薬を退け、12年ぶり2回目の優勝を飾った。一方女子は、日立栃木がオムロンのディフェンスを崩せず、また獲得した7mスローも、GK山口の好セーブで3本も止められ、ワンサイドゲームとなってしまった。オムロンは一昨年までの3連覇に加え、2年ぶり8回目の優勝を飾った。

なお、男子最優勝選手賞に本田技研のフレデリック・ヴォル選手、女子最優秀選手賞にオムロンGK山口文子選手が選ばれた。また、本田技研田口隆監督、オムロン西窪勝広監督に兵庫県協会から最優秀監督賞が贈られた。

男子 本田技研に12年ぶりの栄冠

【1回戦】

湧永製薬 24（11―10、13―12）22 本田技研（熊本）

前半開始2分、本田・児玉の速攻で先取点。その後互いに点を取り合う展開で、1、2点差が続く。湧永は中山のロングシュート、本田はセット攻撃で、佐伯、田中が得点を重ねる。途中20分の湧永タイムアウトの後、中山の2連続得点でリズムに乗るかと思われたが、その後、本田・弥吉のシュートや7MTで同点となり、残り1分で湧永・山口のサイドシュートが決まり、1点差で終わる。

後半、開始直後湧永・中山のロングシュートが決まり、湧永ペースで試合は進む。途中本田には2度の退場があり、湧永の森山、田場らが得点を重ね、最大6点差をつける。しかし、12分湧永15番杉山退場のあと、流れは本田に移り、残り3分、西村のシュートで1点差に詰める。その後、湧永・山口、本田・米満が得点し、1点差のまま終盤へ。最後は湧永・中山のシュートが決まり、2点差で湧永が勝利を収めた。

香川クラブ 23（12―12、11―9）21 トヨタ車体

両チームやや固い立ち上がりの中、お互いシュートチャンスがあるもののミスが続き、10分2―4とトヨタが2点リードする。27分に香川・平田の7MTが決まり、11―11の同点になる。28分トヨタ吉田のサイドシュートが決まり、1点リードしたところ、すぐ香川・加藤のシュートが決まって、前半12―12の同点で折り返す。

後半に入り2分、香川クラブの7MTが2本ともはずれ、その後も流れに乗れず、10分16―13とトヨタ車体が3点リードする。14分香川クラブ、誉田の7MTが決まり、17―16と1点差につめる。15分香川・田中の速攻により同点となる。その後一進一退の攻防が続き、28分香川・平田の速攻が決まり1点リードする。29分40秒、香川・後藤のシュートで23―21で逃げきる。

三陽商会 26（14―5、12―9）14 名城大学

開始1分、三陽・岩本のシュートで得点は動き出し、その後も三陽は着実に加点。三陽のディフェンスの前に攻撃の糸口を見い出せなかった名城大も6分北出のシュートで反撃開始。しかし、その北出が2度目の警告で退場となると、三陽はすかさず岩本、田中(茂)が得点し突き放しにかかる。その後も名城大は退場者を出すなどゲームのリズムを作れないまま前半は14―5と三陽の大量リードで折り返した。

後半は、名城大・新木のシュートで始まり、その後も北出、柴田のミドルシュートも決まりリズムをつかむ。三陽は前半のリードからか、後半はエース岩本を途中で下げるなどメンバーを目まぐるしく替えたため、リズムに乗れず学生2位の名城大の粘りに合うが、社会人のパワーと経験から終わってみればリードを広げた三陽の圧勝となった。

中村荷役 32（13―6、19―9）15 アラコ九州

中村は野村が先取点をあげるが、その後お互いにシュートミスが目立ち、10分までに中村2点、アラコ1点というロースコアが続く。しかし、12分中村は阿部の2連続速攻できっかけを作ると、呉から木浪へのスカイプレイなどが決まり、5点連続得点をあげリズムをつかむ。13―6と中村の7点リードで前半を折り返す。

後半、アラコの材木がポストシュートなどで連続得点をあげ、反撃するかに見えたが、後が続かず、逆に中村が泉のポストシュート、阿部のスピードあるカットインシュートなどを決め点差を広げる。時折アラコの元島がディフェンスの合間をぬってミドルシュートを決めるが、中村のセンタープレーヤーの野村が要所でロングシュートやアシストパスを決め、アラコを突き放し、実力に勝る中村が17点の点差をあけゲームを終了する。中村のGK井上の体をはった好守も目立った試合であった。

大同特殊鋼 40（23―5、17―9）14 福島クラブ

立ちあがり両チームとも初戦の固さからか互いにパスミスなどでチャンスをつぶしあい、得点できない重苦しい雰囲気であった。

4分、大同・藤井のシュートから、徐々に固さがほぐれ、柴田の連続得点からリズムに乗り、序盤の流れをつかんだ。福島も10分過ぎ左サイド小林のシュートで初得点をあげたが、大同の固い守りにはばまれシュートミスが続き、さらに大同GK日原の好セーブもあり、速攻から大同の一方的な試合展開となった。

後半、福島はGK越智が好セーブをみせたが、大同は藤井、朴を中心に得点を重ね、10分過ぎに30点目をあげてからは主力を温存する余裕の試合運びで、危なげなく初戦を飾った。

日新製鋼 26（14―9、12―11）20 北陸電力

北陸は開始1分で2点を先制したが、その後日新製鋼は角谷の3得点を含む6連続得点であっさり逆転。その後は20番嶌本のサイドシュートなどで着実に加点した日新製鋼が、絶えず3～4点のリードを保って試合は進んだ。北陸電力は2本の7MTを得点に結びつけることができず、点差をつめられないまま前半は5点差で終わる。

後半は、開始から日新が4連続得点をあげれば、北陸も7番北川の連続ゴールで食らいついたが、その後日新がまたも4連続ゴールをあげ、点差を10点に広げた。後半、中盤は双方ともシュートの正確さを欠き、試合は動かなかった。終盤は北陸電力が、8番椎山のペナルティスローによる得点でムードを盛りあげ、最後まで粘ったが、結局地力に勝る日新製鋼が26―20の6点差で初戦を飾った。

OSAKI 28（12—8／16—8）16 大阪体育大学

前半20分すぎまで両者ゆずらず、22分大崎・エース魚住のシュートで1点差。そこから大崎ペースで連続3得点をあげ、4点差で前半を終了。

後半10分過ぎより大崎が得点を重ね引きはなす。大体大もエース須藤のシュート等で粘るがスピードとパワーに勝る大崎が12点差で勝利する。

本田技研 35（18—11／17—11）22 デンソー

立ち上がり、ストックランのパスミスからデンソーの速攻、本田、斉藤の警告で、7MTを山内が決め、続いて飯山の速攻で2—0、2分後本田・ストックランの鋭いシュートが決まりスタートする。その後、多様な攻めを見せ、12分後には10—3と広がる。20分本田・池辺の退場となったが高いデフェンスとキーピングで1点で止める。その後本田のパス・シュートミスが続き、デンソーが追い上げを見せ、前半を11—18で折り返す。

後半も、本田はパス・シュートなどのミスがありながらも多様なプレーで得点を上げて行く。デンソーも高いディフェンスの間を割り攻めていき、10分後に15—22となるが、本田の守護神橋本に止められペースにのれず15分を過ぎ、本田の7MT、ポストシュートなどで点差が広がり22—35で終了する。

【2回戦】

湧永製薬 32（16—10／16—10）20 香川クラブ

立ち上がり、両チームとも動きが悪く8分まで3—3のロースコアの戦い。その後、湧永は中山からサイド浜本へのズラシやポスト杉山への攻撃でリズムをつかみ着実に加点した。一方、香川クラブも後藤のステップ、カットイン等で対攻、またキーパー正木の好セーブもあり前半を10—16で終えた。

後半、立ち上がり香川クラブは、4番後藤の退場。その後湧永は4連続得点で波に乗る。香川クラブも後藤、田中の活躍で反撃するが点差は縮まらず、後半15分で15—23と8点差がついた。香川は最後まで頑張ったが、湧永の厚い壁の前に、20—32で終了した。

中村荷役 21（11—12／10—7）19 三陽商会

開始早々、中村10番阿部のサイドシュートで試合が激しく動き出した。前半10分までは両者堅い守りで4—4と一進一退を繰り返した。10分過ぎから、中村にミスが目立ち始め、三陽10番田中のカットイン、速攻等で着実に加点し、前半20分の時点では9—7と三陽がリードした。中村は、リズムを変えようとタイムアウトをとり士気を高めると、GK井上を中心とする堅い守りで三陽を追い上げるが、三陽・田中の連続得点で、12—11と三陽1点リードで前半を折り返した。

後半も互いに気迫のこもった守りで20分まで両者ゆずらず、一進一退を繰り返すが、中村が10番阿部のサイドシュートで16—16と追いつくと、呉(10番)から阿部へのスカイプレーでの得点を期に、連続得点し、三陽を突き放した。

大同特殊鋼 31（17—12／14—6）18 日新製鋼

立ち上がり、大同・朴のカットからの速攻で先取。その後も加点し、日新の初得点は3分、主将源内のミドルシュート。しかしゲームは大同ペースで進み、冨本のミドルなどで7—4とリードを保った。15分、朴のシュートが決まり突き離しにかかる。日新も角谷のステップシュートなどで離されまいと応戦するものの要所で大同の朴、林の韓国選手の個人技が光り、前半は17—12の5点差で折り返した。

後半は、大同・柴田のサイドシュートでゲームが動く。日新も鮎沢のサイドシュートで応戦。4分大同の朴が負傷し退場するハプニングもあり、展開が変わるかと見えたが、すかさず主将藤井のポストシュート、GK日原の好セーブもありスキを与えない。その後も藤井が負傷するなどしたが、選手層の厚さを見せ反撃を許さず、31—18の大差で圧勝した。

本田技研 27（13—12／14—12）24 OSAKI OSOL

ゲームはOSAKI・三谷のステップシュートで先行、すかさず本田はヴォルのランニングシュートで返し、ゲームは熱戦となった。5分過ぎ、大崎・小野が反則退場すると流れは本田に傾きかけたかに見えたが、OSAKIも近藤のサイドシュートでゆずらず、本田も注目のストックランのミドル、OSAKIは魚住のシュートで白熱した展開となった。10分過ぎ魚住が負傷したもののケガをおして出場、15分過ぎには8—7とリードする。GK佐藤の好セーブもあり、ゲームはOSAKIペースで進んだ。しかし終了間際、OSAKI・森脇が反則退場すると本田もリズムを引き戻し、前半は13—12の1点差で本田がリードした。

後半は、パスカットから魚住のシュートでOSAKIが同点とする立ち上がり、その後は両チームゆずらない展開であったが、11分過ぎ本田がリードを奪うと一時は4点差まで開いた。しかしOSAKIも粘りを見せ食らいつき最後まで目を離せない好ゲームとなった。終盤本田に退場者が相次ぎチャンスだったが、かろうじてしのいだ本田が3点差で逃げ切った。

【準決勝】

湧永製薬 17（6—7／11—6）13 中村荷役

【湧永製薬】得点	氏名	番号	【中村荷役】番号	氏名	得点
0	多田	1	1	林田	0
1	森山	2	2	木浪	1
6	田場	4	3	西村	0
4	山口	6	4	天間	0
4	中山	7	6	泉	0
0	高田	11	7	八尾	0
0	坪根	12	8	斎藤	2
0	小沢	13	10	阿部	2
0	田中	14	11	呉	2
1	杉山	15	12	井上	0
1	浜本	17	13	趙	1
0	加川	18	17	西村	2
			18	野村	3
			19	宇佐美	0
17	計	（小林・土屋）		計	13

開始早々の37秒、湧永・田場が先制ゴール。続いて中山、再び田場で3点とリード。中村荷役は湧永の堅守に阻まれるが、ようやく7分55秒、斉藤に渡ったボールが振り向きざまのシュートで1点が返される。湧永・中山、こぼれ球をころがし得点。12分50秒、中村の斉藤、中山が飛び出したところをカットインで得点。中村の野村、7MTを決めて2点差に追い上げ

る。その後しばらくは双方とも攻撃権のやりとりだったが、21分中村の野村、早いパス回しからのランニングシュートを決める。すぐさま湧永・山口ループシュートで応酬、27分中村の阿部空中戦で1点差に追いつく。湧永のパスミスをカットした西村が独走で同点に。終了5秒前、中村の呉、執念のシュートで1点リードし、そのまま前半終了。

後半1分50秒、中村の呉、フェイントで得点。すぐさま湧永・田場右サイドを決める。その後再三の中村シュートをキーパー坪根がしのぐ。5分からは双方、点の取り合いで11—11のまま進むが、17分、守備に帰り遅れた湧永のスキを突き、中村の西村が速攻で加点するが、湧永・中山から山口へのパス、シュートで同点。19分、20分と湧永・田場が鋭く切れ込み2点リード。22分湧永・森山で3点リード。23分中村の趙1点返すが、湧永その後も加点、中村連続してシュートを放つもキーパー坪根よくしのぎ、29分過ぎに湧永・田場のダメ押しの1点で17—13とし、同50秒から中村の趙、斉藤続けてシュートするが決まらず試合終了。


本田技研・加藤選手のシュート

本田技研 30（16—12、14—11）23 大同特殊鋼

【本田技研】得点	氏名	番号	【大同特殊鋼】番号	氏名	得点
0	四方	1	2	佐藤	1
4	池辺	2	3	朴	7
1	佐々木	4	4	冨本	2
0	茅場	5	5	荻本	0
2	斉藤	7	7	市原	1
3	加藤	8	8	藤井	0
1	広政	10	9	林	2
0	橋本	12	10	末岡	9
0	荒木	14	12	日原	0
0	日原	17	14	柴田	0
9	ストックラン	18	16	荻田	0
10	ヴォル	21	18	南川	1
30	計	（浜田・小笠原）		計	23

前半10分までに本田はストックランのカットイン、ミドル、ランニングシュートなどで5得点、対する大同は、末岡のサイド、7MTで2得点。その後、取っては取られる展開から、25分大同・南川が退場、この時得た7MTとパワープレーのチャンスをヴォルが決め、27分、14—9と本田が5点のリードを奪う。しかし、大同は末岡、市原の速攻で2連取、3点差として前半を終える。

後半、開始16秒、大同・藤井が退場。しかし、このピンチをよくしのぎ追撃にうつる。一方本田は、4分から10分までにストックランの4連取。たまらず大同は冨本に対しマンツーマンの指示。これに対し本田は、ヴォルと加藤で広くなったディフェンスを攻める。この間大同は、12分から20分までノーゴール。タイムアウトを取るなど立て直しをはかるが、21分、25—20と5点差と追いすがるのが精一杯。終わってみれば30—23と本田の快勝であった。しかし、ラスト10分を切ってからのストックラン（本田）、藤井（大同）の同時退場などややラフな所の見られるゲームであった。

【決勝】

本田技研 28（14—13、14—11）24 湧永製薬

【本田技研】得点	氏名	番号	【湧永製薬】番号	氏名	得点
0	四方	1	1	多田	0
3	池辺	2	2	森山	1
1	佐々木	4	4	田場	5
0	茅場	5	6	山口	4
3	斉藤	7	7	中山	7
2	加藤	8	11	高田	0
4	広政	10	12	坪根	0
0	橋本	12	13	小沢	0
0	荒木	14	14	田中	0
0	日原	17	15	杉山	4
7	ストックラン	18	17	浜本	3
8	ヴォル	21	18	加川	0
28	計	（浜田・小笠原）		計	24

決勝は本田のスローオフで始まり、先制は湧永・中山からパスを受けた山口の左サイドシュート。すかさず1分半、本田・池辺空中戦を制し1点を返す。その後は5—5まで双方1点ずつの取り合いが続く。11分、本田・ストックラン、妙技のクイックシュート、12分佐々木の滞空時間の長いサイドシュートで2点差とするところから少しずつ本田優勢の試合展開となる。湧永は中山の高い打点からのシュートを中心に杉山のポスト、それに速攻をからめる。一方本田は、ストックラン、ヴォルの高さのディフェンス、高さのオフェンスを中心に攻守に冴えを見せる。本田はストックランをキーマンに着々と得点を重ね、湧永・中山のシュートも決まるものの、点差は縮まらず、3点差で前半を終了。

後半の先制は本田。ヴォルからパスを受けた広政が空いたサイドから決める。すかさず湧永・中山、上からシュートを決める。本田は後半もストックラン、ヴォルの上からのシュートと、池辺、広政のポストシュートを中心に着実に加点。湧永は攻めるがなかなか差が縮まらない。残り3分で中山は3本のシュートをはずすが、本田は両外人が着々加点。残り10秒で本田は2名が退場となるが、大勢は変わらず、残り0秒、湧永・中山の最後のシュートも惜しくもはずれて試合終了。本田技研の優勝で本大会は幕を閉じた。

女子 オムロンが8回目の優勝

【1回戦】

シャトレーゼ 26（13－10、13－12）22 徳山クラブ

徳山クラブが土師のカットインで先制するが、シャトレーゼも加藤の速攻などで4連続ゴール。しかし徳山クラブも琴野、土師のシュートで反撃、その後、徳山クラブGK小林の好守もあり、一進一退の展開になる。22分シャトレーゼ梶田のロングが決まり、シャトレーゼがリズムをつかみ、前半13－10で折り返した。

後半、徳山クラブ飯田のインターセプトで2点差につめるがその後両チーム点の取り合いが続く。13分シャトレーゼ加藤の退場、徳山クラブ小林の連続ゴールで1点差につめよるが、シャトレーゼも梶田のロングなどでねばり、結局、前半のリードを守った。

ブラザー工業 27（16－17、11－8）25 OSAKI OSOL

前半、ブラザー釣川が鋭いカットインで先制。すぐにOSAKI江連が1点を返し、宋のシュートで逆に2－1とリード。さらに宋、金のシュートで5－2としたあともOSAKIは着実に加点。ブラザーも反撃の手をゆるめないが、OSAKI宋を中心とした攻めになかなか点差は縮まらない。前半15分で双方イエローカードが2枚ずつと少々荒れ気味の試合。取られたら取り返すOSAKIだが、速いパス回しのブラザーがじりじりと追い上げ、24分12－12の同点に。その後、双方交互に点を取り合いOSAKの1点リードで前半終了。

後半双方ともシュートが決まらず、やっと3分にブラザー硲が得点をあげて同点に。さらに山本のループシュートでブラザーが1点をリード。OSAKIも速い動きで加点するが、点の取り合いとなる。10分、初めてブラザーが2点リードして21－19。OSAKI江連の退場もあり、3点差に開く。OSAKIもしぶとく食い下がり、26分には1点差に追い上げるが、残り40秒、ブラザーが1点を加え、そのまま逃げ切った。

イズミ 34（18－14、16－11）25 東京女子体育大学

開始1分、東京女子体育大学2番板谷の得点でゲームが動き始めるも、東女体の硬さが目立ち、パスカットや東女体のミスからの速攻で試合の流れはイズミに傾く。前半10分7－2、15分11－6とイズミのペース。しかし16分東女体は15番高田のカットインから連続得点し、17分には11－10と1点差に追い上げ一気に試合が盛り上がってきた。その後、イズミが22分までに3連続得点し、突き放すかにみえたが、東女体もふんばり26分には15－13と再度つめより場内を沸かせた。結局前半は18－14の4点差で折り返す。要所でイズミ10番呉の活躍が目立った。

後半開始早々、イズミが10番呉から5番橋詰へのポストプレーで得点しイズミが一気に加速、3分で4連続得点し、8点差となり大勢が決してしまった。東女体はキャプテン板谷がミドル、カットイン、ポストへのアシストパスと大活躍し抵抗するも後半10分、5点差までつめるのが精一杯であった。

日立栃木 35（16－8、19－6）14 熊本クラブ

立ち上がり様子を見る両チーム。1点目は熊本のサウスポー森田のミドルシュート。その後3分から8分過ぎまで日立がミドル、サイド、ポストと多彩な攻めで加点していく。日立はディフェンスのフットワークがよく、熊本はなかなかボールがつながらない。9分過ぎ熊本は中山、森田とミドル、カットインで得点をするも、ミスからの速攻にやられ前半を16－8で終了。

後半、5分過ぎまで双方ミスが目立ったが、立ち直りの早かったのは日立。相手チームの集中力の欠けてきたところ小気味良いパスワーク、速攻で見せるワンパスで加点していった。両GKのノーマークシュートを止めたプレーはゲームに緊張感をもたらした。終始、ボールへの執着心、フットワークが熊本に勝っていた。

大和銀行 34（15－10、19－9）19 筑波大学

前半、星のサイドシュートで先制した大和銀行が、田中のシュートなどで追加点をあげ序盤を4－1とリードした。筑波大も岡野のカットインシュート、山下(麗)のシュートなどで反撃し、10分を過ぎて7－5まで追い上げた。その後、両チームのGKの好守などで試合は一進一退、つかず離れずの状態が続くが前半終了間際、大和銀行が田中のカットイン、竹田のステップシュートで連続得点し、15－10の5点リードで前半を終了した。

後半に入り、たて続けに4得点した大和銀行は堅いディフェンスとGK山下(美)の再三にわたる好守で筑波大につけ入るすきを与えず、後半13分で24－11とリードを広げた。筑波大は、大和銀行のエース田中にマンツーマンディフェンスをひき何とか流れを変えようとするが及ばず、34－19で大和銀行が勝利をおさめた。

立山アルミ 25（13－9、12－12）21 ジャスコ

立ち上がりこそ互いにやや堅かったものの、次第にリズムのよい攻めが見られるようになり10分過ぎには5－5となる。ここから、立山アルミは、果敢な攻めから7MTをさそうなどし、前半残り10分で8－5と1歩抜け出す。その後も両チーム多彩な攻防を見せ、立山リードの13－9で前半を折り返す。

後半、立山13番のロング3連発で始まるが、ジャスコは速攻、カットイン、GK松尾のファインセーブなどで10分過ぎには16－17と1点差とする。しかし、立山は9番→4番へ渡るスカイプレーなどで再び2点差・3点差のせめぎあいが続く。残り5分、ジャスコ6番の退場を立山は13番、4番のロングなどで生かし、5点差として逃げ切った。

【2回戦】

オムロン 24（16—8、8—7）15 シャトレーゼ

前半、オムロン宮本がまず先制点をあげる。シャトレーゼは5分までに5本のシュートを打つが全てGKに阻まれる。オムロン後藤が2点目、杉原が速攻で3点目。シャトレーゼは今一つ攻め切れない。ようやく9分、シャトレーゼ隅が初得点するも、すかさずオムロン後藤が入れかえす。10分を過ぎてシャトレーゼもようやくエンジンがかかり出すが、オムロンは着実に加点。パスミス、キャッチミスの目立つシャトレーゼに対し、オムロンは幅と高さで堅実な守備。シャトレーゼのちょっとしたミスに確実につけ込み、セット、速攻ともにオムロンが勝り、ダブルスコアで前半を終了。

後半開始1分、シャトレーゼのパスミスに乗じ、杉原がまず1点。シャトレーゼはシュート数では勝るもオムロン陣を中心とする守備の高さに阻まれ、ポストにもパスが通りにくい。ミスにつけこむオムロンのうまさは前半と同じ。シャトレーゼは7MTも得点率が悪く決定力に欠ける。梶田のシュートが決まり出すが、オムロンもすかさず反撃。残り6分で10点差と開く。26分、オムロン後藤が退場、シャトレーゼのパワープレイとなるが、オムロン高橋が素早い動きで得点。残り20秒でシャトレーゼ梶田、意地のシュートを決めるが、そのまま9点差をもってオムロンが貫禄勝ち。

イズミ 31（22—9、9—11）20 ブラザー工業

開始早々両チームGKの好守が続き、なかなか先制点をあげることができず、ブラザーがカットインにより先制点をあげた。イズミは7番林を攻撃の軸としブラザーのやや浮きぎみのディフェンスラインのスキをつき、ポストへのパスを通し得点を挙げていった。一方のブラザーはマイボールにしているものの、パスミスが目立ち確実に得点を挙げられず、単発なシュートが目立ち始めた。イズミが前半22得点に対しブラザーは9得点で前半を終了。

後半に入り、前半13点のリードをしているイズミは、7番林、10番呉をベンチに戻し、選手の入れ替えを図った。そのスキにブラザーも反撃を仕掛けるが、得点差を縮めることができず、確実に得点をあげたイズミが勝利を得た。選手の入れ替えをしたイズミだが、走り込みは変わらず、昨年の優勝チームの貫禄を感じた。

日立栃木 26（15—9、11—14）23 大和銀行

前半両チームとも堅い守りでロースコアの展開となるが、日立は速攻に結びつけ着実に加点する。大和は7番倉知の地面スレスレより打ち出すサイドシュートや、巧みにキーパーをかわすループシュートなどで得点を重ねるが、肝腎な所でオーバーステップなどのミスが出て試合の流れをつかめない。一方、日立はディフェンスがすばらしく、大和に決定的なシュートを打たせない。そして速攻につながり前半優位に立つ。

後半、大和は1—1で果敢に勝負をかけるが、日立は堅い守りで大和にチャンスすら作らせない。それが大和のミスを呼び、日立は着実に速攻で加点する。守備では後半も大和は足が動いていない上、コミュニケーションにも欠ける為、カットインを許し7MTを食らう。日立は終盤、大和のスカイプレーに対する不用意なディフェンスで退場を出し大和の追撃を許すが、大勢を覆すには至らず。



オムロンGK山口選手のセービング

立山アルミ 31（14—17、17—12）29 北國銀行

前半、田中のポストシュートなどで北國銀行は4連続得点を挙げ優位に立つ。一方、立山アルミは本来のリズムをなかなか取り戻すことができずようやく5分過ぎに速攻で得点し反撃を開始する。しかしその差は北國銀行の速攻などにより一時7点差まで広げられたが、立山も粘り9番山崎のサイドシュートなどで2点差まで追い詰める。前半終了間際に立山・崔の2分間退場などがあり、北國銀行が3点差をつけ前半を折り返す。

後半、中塚のロングシュートで立山アルミが先制し、その後も7番山崎の速攻などで同点まで追いつく。両GKの好守などがあり一進一退の攻防が続き、13分にこの試合はじめて立山アルミがリードを奪う。立山アルミはなおも相手の反則による7MTや速攻により、リードを4点まで広げ、北國銀行も最後まで粘りを見せるが31—29で立山アルミが、この接戦をものにした。

【準決勝】

オムロン 28（11—8、17—14）22 イズミ

【オムロン】得点	氏名	番号	【イズミ】番号	氏名	得点
0	山口	1	2	広瀬	2
0	杉原	2	3	藤澤	0
7	田口	3	4	青戸	8
0	指野	4	5	橋詰	0
9	宮本	6	6	河本	0
0	浜田	7	7	林	5
5	高橋	8	8	岩本	1
3	後藤	9	10	呉	5
1	隅	10	11	藤野	1
3	林	13	12	村上	0
0	坂元	17	14	小島	0
0	陳	19	16	片岡	0
28	計	（藤井・大熨）		計	22

前半1分39秒にイズミ林が先制、2分47秒オムロン田口切れこんでシュートを決める。このあと15分ごろまで双方1点ずつ取り合い互いに譲らず。両軍ともスピードある攻守。イズミ主将青戸の見事なサイドシュート、広瀬の7MT成

功、オムロン田口の鋭いシュートなど見ごたえのある試合。また双方のGKの好守も再三である。しかし双方ともパスをインターセプトされることが目立った。イズミの林には昨年のキレが今一つ見られない。呉との連携ももう一つである。林のシュートも3本連続ではずれた。イズミ呉にオムロン高橋がぴったりマンツーマン。イズミが得点をあげても、すかさずオムロンは返し、前半を3点差でオムロン優勢のうちに終了。

後半はまずオムロン田口が本日5点目を挙げるサイドシュートで始まる。5分、イズミ呉、7MTで見事な一回転シュートを決め、続いてインターセプトの球を青戸が押し込み1点差、GK阪野の好守からの速攻で呉がシュートを決め同点に追いつく。しかし、オムロン後藤のポストシュートが決まり出し、じりじりとオムロンがイズミを引き離し出す。双方退場者が続出し、4：6、4：5、5：5の試合となったりした。残り5分で4～5点差は容易に縮まらず、イズミ林のシュートも次第に決まり出すが最終5秒オムロン高橋がダメ押しの1点を入れ、6点差として昨年の覇者イズミを倒した。


オムロン・宮本選手のシュート

日立栃木 29（19－11、10－10）21 立山アルミ

【日立栃木】			【立山アルミ】		
得点	氏名	番号	番号	氏名	得点
0	藤井	1	1	本間	0
6	伊佐野	3	4	崔	4
5	松本	10	5	前山	1
3	中村	11	7	山崎	3
0	渡辺	12	9	山崎	3
5	面	13	11	新屋	4
5	中山	14	13	鏡森	3
5	沖土居	15	14	中塚	3
0	今野	16	16	佐藤	0
0	寺中	18	11	三浦	0
			20	浅井	0
29	計	（仲田・植村）		計	21

前半、立ち上がりは立山アルミ中塚のロングシュート、新屋のポストなどで3点を連取し、立山ペースで始まる。しかし日立栃木も粘り強いディフェンスから徐々に得点を重ね、18分同点とする。その後、立山・鏡森のミドル日立・面のサイドシュートなど一進一退の攻防が続き、前半は10－10の同点で折り返す。

後半開始直後、日立栃木は1人退場するものの前半に続き粘り強いディフェンスでその場をこらえ、松本、沖土居のミドル、伊佐野のカットインプレーでリードを広げるが、立山もディフェンスからの速攻や、中塚のカットインで1点差まで追い上げる。しかし、日立は終始積極的なディフェンスにより、立山のミスを誘い速攻、セットプレーなどでリードを広げていった。攻守とも自力に勝る日立栃木のリズムで試合は展開され、8点差で勝利した。

【決勝】

オムロン 27（13－4、14－7）11 日立栃木

【オムロン】			【日立栃木】		
得点	氏名	番号	番号	氏名	得点
0	山口	1	1	藤井	0
2	杉原	2	3	伊佐野	0
0	田口	3	10	松本	5
1	指野	4	11	中村	1
8	宮本	6	12	渡辺	0
1	浜田	7	13	面	1
5	高橋	8	14	中山	0
5	後藤	9	15	沖土居	4
1	隅	10	16	今野	0
4	林	13	18	寺中	0
0	坂元	17			
0	陳	19			
27	計	（仲田・植村）		計	11

前半開始後しばらくは、日立はオムロンの高さに、オムロンは日立のGKの好守に阻まれ、ともになかなか得点できない。先制は4分にオムロン後藤がフェイントで持ち込む。6分、7分とこぼれ球でオムロン加点、8分ようやく日立・中村のカットインで初得点。オムロンは主将宮本の高い打点からのロングシュートを中心に速攻をからめ着々と加点、一方日立はオムロン陳と後藤を中心とする高さと幅のディフェンスに阻まれ、シュートすることもままならない状態、14－7でオムロン優勢のうちに前半終了。

後半も先制はオムロンで宮本。その後、林のサイドシュート、高橋のロング、杉原の速攻とサイド、宮本7mと連続6得点で、オムロン早くも日立を突き放しにかかる。日立ようやく12分松本が切れ込んで1点を返すが、日立はなかなかシュートまで行けない。上からのシュートが少なくポストも徹底してつぶされ、GKに好守されては手も足も出ないと言ったところ。13分から19分にかけてオムロンまたもポスト、7MT、速攻、ロングと縦横に走り回って加点を続ける。22分、日立松本の上からのシュート、25分に沖土居の7MT成功が精一杯の反撃であった。オムロンは更に攻撃の手をゆるめず28分高橋から後藤に渡ったパスでポストシュート、残り10秒で高橋のダメ押しがあり、オムロンが日立栃木を圧倒し、試合終了となった。

第50回全日本総合選手権大会

《男子》

	23日(水)★1回戦	24日(木)★2回戦	25日(金)★準決勝	26日(土)★決勝
湧永製薬	24	32	17	24
本田技研熊本	22			
香川クラブ	23	20		
トヨタ車体	21			
三陽商会	26	19		
名城大学	14			
アラコ九州	15			
中村荷役	32	21	13	
大同特殊鋼	40	31	23	
福島クラブ	14			
北陸電力	20			
日新製鋼	26	18		
OSAKI OSOL	28	24		
大阪体育大学	16			
デンソー	22			
本田技研	35	27	30	28

《女子》

	23日(水)★1回戦	24日(木)★2回戦	25日(金)★準決勝	26日(土)★決勝
オムロン		24	28	27
徳山クラブ	22			
シャトレーゼ	26	15		
OSAKI OSOL	25			
ブラザー工業	27	20		
東京女子体育大学	25			
イズミ	34	31	22	
日立栃木	35	26	29	11
熊本クラブ	14			
筑波大学	19			
大和銀行	34	23		
立山アルミ	25	31	21	
ジャスコ	21			
北國銀行		29		

第50回全日本総合選手権大会サイドストーリー

女性審判員初登場



長い全日本総合の歴史に初めて女性審判員が登場しました。お二人は、女子の2試合（イズミ対東京女子体育大学、オムロン対シャトレーゼ）を担当されました。

全日本総合にレフェリーとして参加して

龍　弘美（A級審判員）
学校法人東明館学園

今回、第50回全日本総合選手権大会の審判員として参加できたことは喜びであり、誇りであり、快挙です。審判を志すものなら誰でも、いつかはあの舞台に立ちたいと夢見るものではないでしょうか。少なくとも私はそんな〝憧れ〟を持っていました。各チームが全国大会出場を、そして全国制覇を目標にして夢を追うように、私自身もまたこの大会で1試合でも多く、1日でも長く笛を吹き、できれば決勝を任されるような審判員になることを目標に夢を追っています。

今、1つの夢が実現したわけですが、自分の笛を振り返ってみますと、1試合目は緊張と不安の中でも積極的な態度で臨み、集中力、精神力も割と安定していたと思います。ミスはありましたが、監督、コーチ、選手との間でスポーツマンとしての関係が保てた試合でした。2試合目は日本リーグでも吹いていましたからさほど緊張はしていませんでした。しかし、集中力と自己コントロールを失い、ミスの連続でした。監督、コーチ、選手に文句を言われ、罵声を浴び、自分への怒りと情けなさで一杯でした。反省と課題が残る試合でした。

私が初めて公式の場で審判をしたのは秋季関西リーグでした。大学2年生の時です。大阪体育大学の宍倉監督に「お前、なかなか審判のセンスあるやんか」と練習試合の時に言われたのがきっかけでした。それから15年、地区大会、九州ブロック大会、インターハイ、西日本インカレ、全国教職員大会、全国クラブ選手権大会、国体、1・2部日本リーグ、そして全日本総合。様々な大会を通して多くの先生方からの御指導を賜る場を与えていただきましたことを心から感謝しております。

今のところ、全国にA級女子レフェリーペアは私たちが唯一です。また、全日本総合でも初めての試みということで色々なことで厳しさが増してきます。良くも悪くも、他人の見る目は厳しくなってくると思います。レフェリーとしての自覚と責任、そして人間としての心構えをしっかりと持ち、今以上に努力し、謙虚に頑張っていきたいと思います。

最後になりましたが、今回の全日本総合での審判は私たちの力だけでは成し遂げることはできなかったと思います。こんな素晴らしいビッグチャンスを与えていただき、御指導下さった日本協会斉藤実審判長をはじめ、北山隆副審判長、審査員の方々、審判員の方々、そして協力と理解をして下さった職場の皆様、応援してくれた友人、家族のお陰だと思っております。本当にありがとうございました。



龍　弘美審判(左)　貞島早苗審判(右)

貞島　早苗（A級審判員）
佐賀県立神崎清明高等学校

第50回という記念大会に私たちはレフェリーとしても、また、女性としても初めて参加させていただきました。光栄であると同時に、この様な大きな舞台できちんとした仕事ができるかどうか不安でした。（これはきっと運営される方々も持たれていた不安とお察しいたします。）しかし、せっかく与えられたチャンスであり、この大会を目指されているレフェリーの方々にも落胆されぬよう自分なりに精一杯やるしかないと言い聞かせて臨みました。

1回戦、2回戦と2試合を担当し、ゲーム自体も緊張している中での判定は、他の大会とは一味も二味も違っており、失敗も多く、満足のいくものではありませんでした。経験の違いといってしまえばそれまでですが、ミスをしただけに反省、改善点をたくさん見出すことが出来ました。また、他の審判員のレフェリングを見ることができ、お互いに情報交換等ができ、地方では味わえない研修の場ができたこともこの大会のおかげだと思います。

私自身、平成元年にD級を取得してから、龍さんの後を追って、ペアで各大会になって約7年ほどたちますが、女性は珍しいということもあり、周囲の方々から温かく、また大事に育てられたと感じます。反面、試合では女性レフェリーで大丈夫だろうかという雰囲気が伝わってくることがあり、女性と言われないようピリピリした気持ちでやってきました。今大会審判長の斉藤先生の話の中に「レフェリーは人格である」という言葉がありました。男女という性差よりもっと大きな人格、人間性が影響すると言われたようで、自分達自身も女性だからという考えをなくし、1人の人間として自分を磨き、大きく成長していかなければならないと思いました。

今大会を通して改めてレフェリーの難しさ、厳しさを痛感するとともに、まだまだ未熟な私たちを参加させ、これからの女性レフェリーに大きなチャンスを与えて下さった日本協会をはじめ、審判、大会役員の方々、そして佐賀県、九州協会等ご指導下さったすべての方々に心より感謝申し上げます。

第50回全日本総合ハンドボール選手権大会サイドストーリー

明日へ!! 神戸

兵庫県ハンドボール協会理事長　大原　康昇

平成10年度チャンピオンを決める大会が、男子16チーム・女子14チームの強豪が集い12月23日～26日に神戸市で開催されました。

①優勝・本田技研（2回目）
オムロン（8回目）

今大会は、昨年の熊本世界選手権の日本対フランスを思い出させる華麗なプレーに興奮しました。本田技研のヴォル（今大会MVP）・ストックランの強力フランスコンビに守護神GK橋本は、大会の花形でした。豪快なジャンプシュート、素早いランニングシュート、華麗なフェイント、バックパス、針の穴を通すような速攻のロングパスどれも観衆の目を釘づけにしました。また、善戦した湧永の中山、大同の末岡・朴も随所で好プレーを見せてくれました。

女子は、オムロンがエース石を故障で欠きながら宮本・GK山口（今大会MVP）の活躍で前年女王のイズミ（準決勝）に競い勝ち優勝の栄冠を勝ち取りました。

②盛り上がった会場

ユミ（YUMI・GODSAY熊本ファームパーク所属＝写真下）ユミは、熊本世界選手権でもおなじみで熊本総合体育館と八代体育館でゲームのアナウンスを担当した実績があります。準決勝より選手紹介・試合実況・ハーフタイムの歌・チームの応援アピールなどファンサービスに大好評でした。選手も乗せられ、観客も乗せられ、いつのまにか試合で好プレーが生まれ会場が盛り上がりました。

③兵庫県・神戸市の後援

「世界や国内の最高のプレーを神戸の子供たちに見せてほしい」という希望より、毎年のように大変な援助と協力をいただきました。神戸淡路大震災以来はや4年がたとうとしていますが、今大会は「明日へ!!神戸」のスローガンのもと、震災復興をめざす兵庫県民・神戸市民に感動を、また神戸の将来を担う子供たちには夢と希望を与えてくれるものとなりました。



メイン会場のグリーンアリーナ神戸は、ハンドボール専用に作られたと思われるような造りで、観客席がすぐ間近に迫っており選手の迫力が直に伝わってきます。また、神戸市立中央体育館との2面（2日間）開催となりましたが、両体育館とも特に松ヤニ使用の許可を出していただき、選手の素晴らしいプレーを引きだすことができました。補助員の地元の大学生や高校生が、会場準備や試合終了後遅くまで清掃作業をしてくれたことにも感謝いたします。

④サンTV・CM

12月より地元サンTVに大会コマーシャルをながしました。ハンドボールを経験した人、また身近な人達から「年末に全日本のハンドボールの大会があるらしいね」と声をかけられ、あらためてTVの影響や反響は大きいものだと思いました。

⑤ハンドボール・フェスタ'98

昨年に続き、日本協会と大崎企業スポーツ事業研究助成財団の共催によりアリーナ入口横の特設スペースにおいて、ファンと選手の交流会が25・26日の2日間行なわれました。準決勝進出チームの選手の手形入りサイン色紙を配布してもらったり、試合が終わったばかりの選手とプリンパ撮影をして直接話もしていました。ナショナルチームの選手との交流を楽しみにして小学生・中学生・高校生がサイン求めて長い列をつくっていました。プリントがすぐに出来上がらず、後日送付させていただくこととなり、改めて人気があり続けて行なっていただきたい催しであります。

最後になりましたが、第50回記念すべき大会が無事成功裏に終ることができましたのは、関係の皆様のご支援とご協力がありましたお陰と深く感謝申し上げます。

第13回アジア競技大会報告

日本選手団広報総務　喜井　美雄

第13回アジア大会ハンドボール競技が、男子12月7日から12月16日まで、女子12月9日から12月14日までタイの首都バンコクで開催された。

〈男子〉

男子は、最後まで参加国がわからない状態と競技日程が5回も変更されるなど、不安な中始まった。

この大会は、すでにエジプト世界選手権の予選が終っており、単独大会である。順位決定方法は、日本を含め8カ国がA・Bの2グループに分かれて総当たりリーグ戦を行い、双方の上位2カ国が準決トーナメントへ進み、勝った国が決勝戦へ、負けた国が3位決定戦を行う。

競技会場は、選手村のタマサート大学から徒歩15分と近く、冷却も寒いくらいきき、フロアーが固い以外は快適な中で行われた。予選リーグの目標はトップであった。Aグループにはクウェート、UAEの中東勢に地元タイと、組み合わせとしては良かった。しかし、中東寄りの笛は予測されたものの不快感を憶えるほどひどかった。特にクウェート戦はよく引き分けに持ち込んだと思うほど片寄った笛であった。また、クウェートをどうしてもAグループ1位にしたいのが見え見えであった。

予選リーグ最終日、前の試合で日本がUAEに10点差で勝ち得失点差48点をつけ、日本が予選トップと誰もが思ったが、クウェート対タイ戦では、クウェートが得点してもスローオフ間時間を止めるなど、通常より5~6分試合時間を長くし、49点以上の差をつけクウェートが勝ち、日本は予選Aグループ2位になり準決トーナメントでBグループ1位の韓国と戦うことになった。結果は、得点は取れるものの、守りの差が出て負け、3位決定戦イラン戦にまわった。3位決定戦では、中東寄りの笛にもかかわらず、イランに勝ち銅メダルを獲得した。

〈女子〉

女子は日本を含め6カ国が総当たりリーグ戦を行い、上位4カ国が本年11月から始まるノルウェー世界選手権大会の切符が与えられる。女子の会場は選手村からバスで1時間半のシリンドローン大学で行われた。会場は冷却もよくきき、フロアーが固い以外は良い条件の中で行われた。初戦は、中国と互角ぐらいの情報しかない北朝鮮であった。相手のスタミナと日本の固さが最後までとれず、日本本来の動きが出ず敗れる。

中国戦は身体のハンデを動きでカバーし、勝てるゲームを残念ながら引き分けで終わる。韓国戦では、日本本来の激しい動きで、他国には大差で勝っている韓国に最後まで接戦し、4点差で敗れる。最終戦のカザフスタンとは、勝てば3位であり、動きが固くなり苦戦が予測されたが、持ち前の運動量とスピードで接戦を勝ちとり銅メダルとノルウェー世界選手権の切符をものにした。

女子の場合は、レフェリーの問題もなく、世界選手権、シドニー五輪出場の目標に向かって着実に進んでいる。

〈最後に〉

大会日程が最後まで決まらない中、タイの日系企業のご協力と応援、日本からの応援に対して深く感謝を致します。

男子

■12月7日(1日目)
男子Aグループ予選ラウンド

日本			タイ
54	28	6	15
	26	9	

(戦評) 体力・技術とも大差がありそのままの結果となった。ただ、ミスが多い試合であった。

■12月9日(3日目)
男子Aグループ予選ラウンド

日本			クウェート
20	11	10	20
	9	10	

(戦評) 前半からシーソーゲームとなり1点ビハインドで折り返す。後半になりクウェートの遅い攻撃に合わすため日本は動きが硬く、後半は一進一退の攻防が続き、残り2分日本が退場者が出たこともありクウェートが20―18とし勝利はないと思われたが良く粘り、茅場の速攻、残り8秒中山のロングで引き分けとした。勝ちに等しい引き分けである。

■12月11日(5日目)
男子Aグループ予選ラウンド

日本			UAE
29	18	11	19
	11	8	

(戦評) 日本は前半より早い攻撃をしようとするが、UAEのゆっくりとした攻撃にひき込まれ、前半を3点リードで折り返す。後半になりやっと本来の動きが出てつきはなす。次のためにももう1点でも多く…。

■12月13日(7日目)
男子準決勝

日本			韓国
27	16	17	35
	11	18	

(戦評) 立ち上がり富本の速攻で先取するが、韓国パクのフェイン

トから崩され中盤15分で5点リードされるが、佐々木の4連続得点で追い上げる。しかし、20分から4連続失点でつきはなされ、7点ビハインドで折り返す。後半に入り、パクにマンツーマンをつけるが、ユンの活躍で守りができず7点差で終了。韓国は後半に入ってもベストメンバーでのぞみ気を抜くことはなかった。前半の終盤に連取されたことが全てであった。

■12月16日(10日目)
男子3位決定戦

日本	前半	後半	計	イラン
日本	16	12	28	
イラン	12	11	23	

女子

■12月9日(3日目)
女子リーグ

	前半	後半	計
日本	12	8	20
北朝鮮	14	12	26

(戦評) 前半4連続得点でいい立ち上がりをしたが、北朝鮮のスピードプレーに対応できず、2点ビハインドで折り返す。後半になり本来の動きで7分に1点差まで詰め寄るが、その後3点連取され突き放される相手が退場しているとき得点が取れなかったことが、敗因であった。

■12月10日(4日目)
女子リーグ

	前半	後半	計
日本	13	9	22
中国	9	13	22

(戦評) 前半日本は動きが良くGK山口の好守から速攻に繋げ常にリード、一時6点リードするが、終盤追い上げられ4点リードで折り返す。後半、お互いに退場者が出たとき日本はリズムを崩し、同点にされた。日本は終始動きが良く勝つチャンスはあったが残念なゲームであった。相手が退場しているとき得点が取れなかったことが、引き分けの原因であった。

■12月11日(5日目)
女子リーグ

	前半	後半	計
日本	24	22	46
タイ	3	3	6

■12月12日(6日目)
女子リーグ

	前半	後半	計
日本	13	10	23
韓国	15	12	27



(戦評) 前半立ち上がり、ロング・速攻と韓国の動きが勝り中盤4点リードされるが、日本は厳しく早く動き、相手のミスを誘い終盤2点連取するが、韓国もよく粘り、韓国2点リードで折り返す。後半の立ち上がり、動きが止まり6点連取され8点差となるが、ここから4点連取、3点連取で残り5分で2点差まで盛り返すがとどかず。勝利はできなかったが60分を通じ運動量は負けなかった好ゲームであった。

■12月13日(7日目)
女子リーグ

	前半	後半	計
日本	11	15	26
カザフスタン	7	15	22

(戦評) 立ち上がり、日本は6連続得点で出足よく中盤追い上げられたが動きは止まらず、11－7と4点差で折り返す。後半11分追い上げられ14－14の同点となるが、ここを踏ん張り26－22で勝利する。前後半に渡り運動量とスピードが続いたことが勝因である。

※個人得点表は次号に掲載します。

英知を結集し将来像を

企画・広報委員
早川　文司

フリースロー
Free Throw

中村荷役の休部に続いて、日新製鋼が第23回リーグを最後に撤退を決めたという。ダブル・ショックであるが、一方では「やはり」ともいえる事態といえなくもない。

経済界は長い不況から抜け出せないでいる。ハンドボールに限らず、アイスホッケー、テニス、バスケットボールなど多くの競技が企業の“事情”で休部あるいは廃部などに追い込まれている。

もともと外国と違って日本のスポーツ界は企業に依存して成り立ってきた。Ｊリーグ・横浜フリューゲルスがマリノスに吸収合併されることが大きな反響を呼んだが、これをとっても企業の経営難に端を発した、企業側にしてみれば、支える体力がなくなれば切り離すのは「当たり前」のことかもしれない。トップチーム、トッププレイヤーを育てようという姿勢は、第二義的なものといっていいのではなかろうか。言い換えれば、それだけ企業におんぶにだっこの日本スポーツ界の「土台」は、ひ弱といえるだろう。

それでも現在の日本のあらゆるスポーツ界は、企業の手助け、依存なくては活動できないのが実状である。情けないといえば情けないが、今回のショッキングな出来事を契機に、早急に新たな「日本スポーツ界の進むべき進路」を考えるいい機会ととらえるべきであろう。

Ｊリーグが基本理念に挙げている地域連帯にしても、では実際にはどのような手段があるのかという点では、もう一つはっきりしたものが見えてこない。新たな方向性をどう見い出すか―ハンドボール界だけで片づくような、簡単なものではない。

各競技団体が英知を結集して、将来をしっかり見据えての改善策、あるいは日本のスポーツ界の進むべき道、とるべき策―いわば将来像を早急に探っていくべきだろうと思う。その場しのぎの策でお茶を濁してもどうしようもない。いずれまた同じことの繰り返しが待っているはずだ。

某代表選手がしみじみ話していた。「チームに残るか、移籍するか悩む。残っては代表にはもう呼ばれないだろう。かといって、親切にしてもらった職場の人たちを思うと、後ろ髪をひかれる」。世界の舞台で活躍する夢を追い求めるか、純粋に愛するハンドボールを地道に続ける道を選択するか。決断する時間はそんなにはないのだが…。

ANA

ANA CARD

ANAカードなら、旅の応援機能満載。
マイレージの楽しさも大きく広がります。

空港でも余裕の
チェックイン

出張先でのショッピングも
バックアップ

旅の安心。
保険もサポート

ホテルのご利用も
おトク倍増

航空券ご予約が、
スムーズアップ

ショッピングでマイルを貯めるならやっぱりANAカード!

お買物やお食事でもカードでしっかり貯めやすい

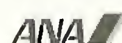
クレジット会社のポイントを100円=1マイルで貯められます。

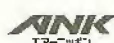
一度で2倍貯まる「ショッピングアルファ」も充実

下記のお支払い内容なら、100円＝1マイルを自動的に加算。クレジット会社のポイントによるマイルと合わせて、100円=2マイルになるうれしいサービスです。

■対象商品・店舗

●国内全日空各支店、空港カウンターでの航空券のお求め、および機内販売　●高島屋　●日本石油SS　●出光SS











さらにボーナスマイルで貯めやすさがアップ!

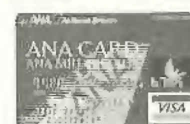
飛ぶたびに基本マイレージの15%(ワイドカードの場合。一般カードは5%)のボーナスマイル。また、毎年初めてのご搭乗時に3,000マイル(ワイドカードの場合。一般カードは1,000マイル)のボーナスマイルでおトクに貯まります。

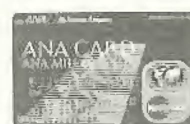
今なら、一般カード初年度年会費無料サービス中です

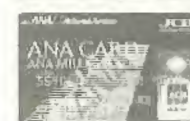


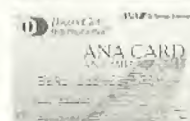
今日からマイルが
貯められる
インスタントカード付き

お問い合わせ、入会申込書のご請求は、
フリーダイヤル **0120-029-707** まで
[受付時間] 9:30～17:00(土・日・祝・年末年始を除く)
全日空各支店、空港カウンターにもございます。









'98ジャパンカップ

男女とも優勝でアジア大会に弾みつく

1998年度日本ハンドボール協会主催の国際大会として「'98ジャパンカップ」が愛知県下4会場（中村スポーツセンター、枇杷島スポーツセンター、豊田市体育館、知立市福祉体育館）で、11月22日(日)～25日(水)の4日間にわたり熱戦が繰り広げられた。大会は男女ナショナルチームのシドニー・オリンピック大会の強化事業、ハンドボール競技の普及事業、'98アジア競技大会の男女ナショナルチームの壮行試合、世界学生選手権大会（U－23）の帰国報告（女子）・壮行試合(男子)、さらに愛知県ハンドボール協会50周年記念国際大会を兼ねた。

大会は男女ともナショナルチーム、U－23、日本リーグ選抜、外国招待チームの4チームによるリーグ戦形式で行われた。外国招待チーム男子は2年後のオリンピック開催国であり、現在強化中のオーストラリア、女子はこの夏ナショナルチームが遠征を行ったスロバキアからスロバキアリーグ1部2位の名門クラブチームであった。女子ナショナルは遠征時の対戦では22－22で引き分けている。男女とも日本リーグ選抜は日本リーグに在籍する外国人選手を中心にリーグのスター選手が顔をそろえたドリームチームであった。また、U－23チームの多くは同じ愛知県で行われていた全日本学生選手権大会に参加し、心身ともにきつい状態ではあったが将来のナショナル候補としての自覚で大会に臨んだ。

それらを迎え撃つナショナルチームはアジア大会に向けての最後の調整でもあり、シドニーオリンピックへ向けての大きな一歩にしたい大会でもあった。

大会は男女ともナショナルチームの優勝であった。これは、87年に行われた第1回大会以来初めてのことであった。

大会2日目には、JOCより三宅義伸氏（東京、メキシコ五輪重量挙げ金メダリスト）がアジア大会ナショナルチーム激励のため会場に来られた。

最終成績、個人表彰は以下の通り。


日本男女ナショナルチームを激励に訪れた三宅義信氏

'98ジャパンカップ　最終成績および個人表彰

〈最終成績〉

男子
優勝　日本ナショナル（3勝）
2位　日本リーグ選抜（2勝1敗）
3位　日本U―23（1勝2敗）
4位　オーストラリア（3敗）

女子
優勝　日本ナショナル（2勝1分）
2位　日本リーグ選抜（2勝1敗）
3位　バンスカ・ピストリッツァ（1勝1分1敗）
4位　日本U―23（3敗）

〈個人表彰〉

〈男子〉
最優秀監督賞
蒲生　晴明（日本ナショナル）
最優秀選手賞
冨本　栄次（日本ナショナル）
ベストセブン
GK　日原　一幸（日本ナショナル）
CP　角谷　裕司（日本ナショナル）
CP　広政　宣孝（日本リーグ選抜）
CP　セルゲイ・ジザ（日本リーグ選抜）
CP　朴　性立（日本リーグ選抜）
CP　ピーター・バック（オーストラリア）
CP　小川　友康（日本U―23）

〈女子〉
最優秀監督賞
伊藤　宏幸（日本ナショナル）
最優秀選手賞
田中　美音子（日本ナショナル）
ベストセブン
GK　今野　清美（日本リーグ選抜）
CP　小松　真理子（日本ナショナル）
CP　沖土居　真子（日本ナショナル）
CP　田中　美代子（日本ナショナル）
CP　呉　成玉（日本リーグ選抜）
CP　アクロメーヴァ・イリーナ（バンスカ・ピストリッツァ）
CP　早川　まさみ（日本U―23）

男子

日本ナショナル　20（12―7、8―8）15　日本リーグ選抜

'98ジャパンカップの開幕戦、立ち上がりはボールを速く回して攻める日本代表と、外国人選手を中心にプレーする日本リーグ選抜と互角の展開であった。前半15分過ぎから、日本のDFがよく動き、日本リーグ選抜の攻撃を遮断し始める。その間に、GK日原の2本の7mスローのセーブ、広政の速攻、7mスローなどで差を開き始めた日本代表が、12―7とリードして前半を折り返した。

後半に入っても日本代表のGKを中心としたディフェンスが機能し、日原がファインセーブを連発。完全に日本代表のペースとなり、広政の速攻、藤井のポストなどで確実にリードしていった。日本リーグ選抜も大同特殊鋼の朴、本田技研のジザ、中村荷役の呉などで追い上げるが、最後まで日本代表の激しいディフェンスを崩し切ることはできなかった。

なお、この試合の優秀選手は、日本代表・日原選手、日本リーグ選抜・朴選手。

[ナショナル] 得点	氏名	番号	[リーグ選抜] 番号	氏名	得点
0	橋本	1	1	四方	0
2	角谷	3	2	木浪	1
1	佐々木	4	3	朴	5
0	冨本	5	4	吉田	0
2	森山	6	5	柴田	0
2	中山	7	6	池辺	2
1	末岡	10	7	市原	0
0	日原	12	8	荒尾	2
2	藤井	13	9	林	0
0	杉山	14	10	田中	0
0	坪根	16	11	呉	4
2	茅場	17	14	田中	0
0	山口	18	16	宇田川	0
6	広政	19	20	ジザル	0
2	辻	20	21	ヴォル	1
0	岩本	8			
20	計				15

後藤・清水

日本ナショナル　38（20―10、18―9）19　オーストラリア

両国ナショナルチーム同士の戦い。前半、4番バックのシュートで先制したオーストラリアであったが、日本代表の1―2―3、0

[ナショナル] 得点	氏名	番号	[オーストラリア] 番号	氏名	得点
0	橋本	1	1	ベイジャン	0
7	角谷	3	2	テイラー	1
5	佐々木	4	3	チャン	0
6	冨本	5	4	バック	6
3	森山	6	5	イヴァンコビッチ	1
5	中山	7	6	セスティック	4
0	岩本	8	7	ジアド	1
3	末岡	10	8	ラマダニ	4
0	日原	12	9	スコフィールド	0
1	藤井	13	10	アーノルド	0
0	杉山	14	13	ベイダー	2
0	坪根	16	16	シェバム	0
4	茅場	17			
0	山口	18			
5	広政	19			
0	辻	20			
39	計				19

浜田・小笠原

−6両ディフェンスを崩し切れず、日本代表に速攻をつなげられた。前半だけで5本の7mスローを決めた日本代表が、広政、茅場、冨本らで着実に加点。GK日原が昨日に続いて好セーブを見せるなど、日本代表のペースで終始試合が進んだ。オーストラリアもベイダー、ラマダニで追い上げをはかるが、日本のオフェンス陣に対応しきれなかった。

後半も日本代表は中山、冨本、角谷らでリードを広げる。オーストラリアは荒いディフェンスが目立ち、20分過ぎには得点源のラマダニが3回目の退場で失格、速攻を止めようとコートに出たゴールキーパーが退場になるなど、日本代表を慌てさせることができなかった。終わってみれば日本代表が危なげなくダブルスコアで圧勝した。

優秀選手はオーストラリア・バック選手、日本代表・冨本選手。

日本リーグ選抜　30（16−9、14−10）19　日本U−23

前日までインカレを戦った学生によるU−23は、キャプテン所のリードから、日本リーグの外国人選手を主体とした日本リーグ選抜に挑んだ。前半はGK谷川のナイスキープも飛び出し、果敢についていったが、日本リーグ選抜の高いディフェンスを攻略しきれなかった。日本リーグ選抜は、GK宇田川の安定したキーピングから荒尾の速攻、ジザの強打などで着実に差を広げていった。

後半に入っても、日本リーグ選抜の堅いディフェンスと、スピード、パワーが一枚上手で、小倉、松林、小川らの積極的な攻撃も勝ちには結びつかなかった。経験と体格で勝った日本リーグ選抜は迫力あるハンドボールを展開、会場をさすがとうならせた。一方のU−23も若さあふれるプレーぶりに好感を持たせるものであり、明日以降に期待を持たせるものであった。

優秀選手には、日本リーグ選抜・ジザ選手、U−23・谷川選手。



[リーグ選抜] 得点	氏名	番号	[U−23] 番号	氏名	得点
0	四方	1	1	吉井	0
0	木浪	2	2	所	1
3	朴	3	3	松林	4
3	吉田	4	4	小藪	2
1	柴田	5	5	小倉	1
3	池辺	6	6	武藤	1
2	市原	7	7	下川	0
8	荒尾	8	8	小川	6
1	林	9	9	永島	0
0	田中	10	10	瓜生	2
1	呉	11	11	古家	1
0	田中	14	14	谷川	0
0	宇田川	16	13	鶴見	1
7	ジザ	20	16	高木	0
1	ヴォル	21			
30		計			19

仲田・植村

日本ナショナル　33（19−7、14−8）15　日本U−23

[ナショナル] 得点	氏名	番号	[U−23] 番号	氏名	得点
0	橋本	1	1	吉井	0
6	角谷	3	2	所	1
3	佐々木	4	3	松林	1
4	冨本	5	4	小藪	0
3	森山	6	5	小倉	0
1	中山	7	6	武藤	5
1	岩本	8	7	下川	3
0	末岡	10	8	小川	1
0	日原	12	9	永島	0
2	藤井	13	10	瓜生	1
1	杉山	14	11	古家	2
0	坪根	16	12	谷川	0
4	茅場	17	13	鶴見	1
0	山口	18	16	高木	0
4	広政	19			
4	辻	20			
33		計			15

渡辺・楓

U−23は、キャプテン所の好リードからハツラツとしたプレーで日本代表と互角のペースで進めていく。また、アグレッシブなディフェンスで体格差をものともしないプレーが続き、点差は広がらない状況であった。それに対して日本代表は、厚いディフェンスから徐々にU−23の攻めを寸断し、15分過ぎから速攻が出るようになり3点連取、U−23は、タイムアウトを取りリズムを変えようとするが、逆にまた3連取され14−8で日本代表のリードで前半を終える。

後半、U−23下川のサイドシュートで反撃のリズムをつかみかけたが、日本代表の高いディフェンスにつかまり、連続速攻を許し15分間ノーゴールと一方的な展開となった。17分頃から古家のカットイン、武藤の速攻でリズムをつかもうとするU−23は、余裕のある日本代表に対して散発シュートのみで、前半のアグレッシブな攻守が見られなくなり日本代表の完勝となった。

優秀選手は、日本代表・角谷選手、U−23・古家選手。

日本リーグ選抜　30（16−9、14−9）18　オーストラリア

日本リーグ選抜チームのフロントプレーヤーは、朴、林、呉と、オーストラリアチームに体格でも見劣りしない。この3人を中心にたて続けに4点連取。このまま差が開いていくかと思われたが、オーストラリアはチャンがサイドに入り、ディフェンスも1−5に変更し、徐々に追いつき、16分過ぎには、8−8となる。日本リーグ選抜はタイムをとり、フロントとポストにジザ、ヴォル、池辺、市原を入れ、オーストラリアもチャンを下げ0−6ディフェンスにするが、日本リーグ選抜がジザ、田中の活躍で4連続得点。前半は、14−9で日本リーグ選抜がリードして終わる。

後半、オーストラリアは、アーノルドの活躍により、立ち上がり加点する。15分過ぎまでは、一進一退の攻防が続く。しかしながら、15分過ぎ以降、呉、木浪の活躍などにより、徐々に点差を開いていった。オーストラリアもバック、イヴァンコビッチがロングを決めるが、点差は開き、日本リーグ選抜が30−18で勝ちをおさめた。

優秀選手は、日本リーグ選抜・田中（茂）選手、オーストラリア・イヴァンコビッチ選手。

[リーグ選抜] 得点	氏名	番号	[オーストラリア] 番号	氏名	得点
0	四方	1	12	ベイジャン	0
5	木浪	2	2	テイラー	0
4	朴	3	3	チャン	1
2	吉田	4	4	バック	6
0	柴田	5	5	イヴァンコビッチ	4
2	池辺	6	6	セスティック	0
1	市原	7	7	ジアド	0
1	荒尾	8	8	ラマダニ	0
1	林	9	9	スコフィールド	0
6	田中	10	10	アーノルド	5
2	呉	11	13	ベイダー	2
1	田中	14	16	シェバム	0
0	宇田川	16			
5	ジザ	20			
0	ヴォル	21			
30		計			18

仲田・植村

日本U-23 33（22-16、11-11）27 オーストラリア

[U-23]			[オーストラリア]		
得点	氏名	番号	番号	氏名	得点
0	吉井	1	12	ベイジャン	0
4	所	2	16	シェバム	0
3	松林	3	2	テイラー	1
1	小薮	4	4	バック	10
1	小倉	5	5	イヴァンコビッチ	3
1	武藤	6	3	チャン	0
6	下川	7	6	セスティック	6
5	小川	8	7	ジアド	0
0	永島	9	8	ラマダニ	5
1	瓜生	10	9	スコフィールド	1
4	古家	11	10	アーノルド	0
1	谷川	12	13	ベイダー	1
6	鶴見	13			
0	高木	16			
33		計			27
		浜田・小笠原			

両チーム勝ち星なしでむかえた最終戦、U-23がオーストラリアの高さとパワーに苦しみペースをつかめない立ち上がりであった。オーストラリア4番バックの強打が炸裂する中、U-23は、13番鶴見、7番下川の両サイドのスピードプレーで対抗した。前半の中盤あたりから、U-23のDFが慣れ始めるとオーストラリアの攻撃をしのぎ、11番古家、8番小川のカットインプレーで追いつき、同点で前半を終えた。

後半立ち上がりに、U-23がスパート、相手の攻撃を守り、速攻につなげ、オーストラリアを引き離した。オーストラリアは、6番セスティックの強力なロング、カットインで追い上げるが、U-23のコートいっぱいに使う横のゆさぶりとスピードあるカットインを守りきれなかった。残り13分から、オーストラリア代表は、オールコートプレスでU-23をあわてさせようとするが、確実にU-23は加点していき勝利をおさめた。

優秀選手は、オーストラリア・セスティック選手、U-23・小川選手。

女子

バンスカ・ピストリッツァ 33（14-12、19-9）21 日本U-23

[バンスカ・ビストリッツァ]			[U-23]		
得点	氏名	番号	番号	氏名	得点
1	オストルカ	2	1	細谷	0
3	マリンコヴァ	4	2	岡野	3
4	ラピノヴァ	5	3	橋詰	0
3	ヒリチャナ	6	4	板谷	0
6	サログブ	7	5	伊藤	1
1	ヴァルコヴァ	8	6	村上	3
2	ナポリオヴァ	10	7	大石	1
4	サティコヴァ	13	8	村瀬	3
3	オツイマ	14	9	金城	1
6	アクロメーヴァ	15	10	坂本	2
0	ロマノヴァ	16	11	藤田	0
			12	倉	0
			13	早川	5
			14	山田	2
			15	中後	0
			16	田中	0
33		計			21
		後藤・清水			

'98ジャパンカップの開幕戦は、先日まで行われた名古屋インカレを戦った大学生に、一部日本リーグ選手を加えたU-23と、スロバキアのバンスカ・ピストリッツァで行われた。体格で勝るスロバキアは、立ち上がりから有利に試合を展開、184cmのサログブのポストを中心に得点を重ねた。一方U-23は高さに対し、スピードプレー、フォーメーションプレーで対抗。村上、早川などで追い上げるが、スロバキアの強力な攻めを守り切れず、前半を19-9と大量リードされた。

後半に入り、U-23のディフェンスが対応しはじめ、互角の展開に。早川のサイドシュート、村瀬のポストなどで追い上げる。しかし、高く大きいディフェンスからの速攻、攻撃からの帰陣でも一歩上回るスロバキアに追いつけず、ヒリチャナ、サティコヴァらからの得点を防ぐことはできなかった。U-23もGK田中の好セーブ、終了間際のダブルスカイプレーで会場をわかすが、地力に勝るスロバキアが大勝した。

なおこの試合の優秀選手は、スロバキア・ラピノヴァ選手、U-23・早川選手。

日本ナショナル 26（10-11、16-14）25 日本リーグ選抜

[ナショナル]			[リーグ選抜]		
得点	氏名	番号	番号	氏名	得点
2	沖土居	2	1	今野	0
0	宮本	3	2	林	1
1	松本	4	4	田口	8
0	小林	5	5	金	2
0	青戸	6	6	和田	5
5	小松	7	7	呉	2
7	田中	8	8	崔	4
5	田中	9	9	宋	3
2	田中	10	10	後藤	0
4	中村	11	11	加藤	0
0	山口	12	16	安田	0
0	池田	13	13	佐藤	0
0	倉知	14	14	佐久川	0
0	藤浦	15	15	巽	0
0	山下	16			
0	熊谷	17			
26		計			25
		渡辺・楓			

日本代表はキャプテン田中美音子、日本リーグ選抜はイズミ所属の林両選手のリードのもと、スピードある攻撃を展開した。日本代表、田中美音子、田中美代子が前半得点を重ね、終始日本リーグ選抜をリード、GK山口の好守が光った。一方、日本リーグ選抜は、相手のミスを速攻につなげ、林、OSAKIの金、宋、イズミの呉ら、韓国人の活躍で追い上げた。

後半に入り、日本代表の攻撃陣が日本リーグ選抜のディフェンスを崩しきれずミスを連発、そこを速攻で日本リーグ選抜が逆転、試合は緊迫してきた。しかし、残り15分から、日本代表が中村の連続速攻、沖土居のステップシュート、速攻などで再び逆転、日本代表がこのままいくかと思われたが、残り3分で田中美代子が退場、まったく結果はわからなくなってきた。しかし、このピンチを日本代表が守り切り、1点差で勝利をおさめた。

優秀選手は、日本代表・田中美音子選手、日本リーグ選抜・林五卿選手。

日本ナショナル 28（18-7、10-10）17 日本U-23

[ナショナル]			[U-23]		
得点	氏名	番号	番号	氏名	得点
6	沖土居	2	1	細谷	0
1	宮本	3	2	岡野	3
0	松本	4	3	橋詰	0
0	小林	5	4	板谷	0
0	青戸	6	5	伊藤	0
5	小松	7	6	村上	4
7	田中	8	7	大石	0
7	田中	9	8	村瀬	0
0	田中	10	9	金城	0
0	中村	11	10	坂本	1
0	山口	12	11	藤田	0
0	池田	13	12	倉	0
0	倉知	14	13	早川	4
2	藤浦	15	14	山田	5
0	山下	16	15	中後	0
0	熊谷	17	16	田中	0
28		計			17
		森・岩本			

前半の立ち上がりは、日本代表、U-23共に攻撃のリズムがつくれ

ず、一進一退の互角の展開となる。日本代表のポストプレーや7番北國銀行の小松の速攻をU—23・16番大阪体育大の田中の好セーブにより、点差は広がらず、10—10の同点で折り返す。

後半は、安定した厚い日本代表のディフェンスを、U—23が攻めきれず、あせりが見え始めた。しつようなディフェンスによるミスからの日本代表の速攻により、完全に日本代表のペースとなり、日本代表の勢いは止まらず、終わってみれば、28—17の点差となった。

なお、この試合の優秀選手は、日本代表・日立栃木の沖土居真子選手、U—23・筑波大学の山田永子選手。

日本リーグ選抜 36（21—13、15—17）30 バンスカ・ビストリッツァ

［リーグ選抜］得点	氏名	番号	［バンスカ・ビストリッツァ］番号	氏名	得点
0	今野	1	2	オストルカ	0
2	林	2	4	マリンコヴァ	1
0	田口	4	5	ラビノヴァ	6
10	金	5	6	ヒリチャナ	3
6	和田	6	7	サログブ	3
9	呉	7	8	ヴァルコヴァ	0
5	崔	8	10	オボリオヴァ	5
3	宋	9	13	サティコヴァ	2
1	後藤	10	14	オツイマ	0
0	加藤	11	15	アクロメーヴァ	10
0	佐藤	13	16	ロマノヴァ	0
0	佐久川	14			
0	巽	15			
0	安田	16			
36	計				30

浜田・小笠原



スロバキア・オボリオヴァのスタンディングシュートでスタート、体格差を日本リーグ選抜はアグレッシブなディフェンスでカバーし、スロバキアにペースを与えず、逆に高いディフェンスに対して、呉のセンターからミドル、スタンディングと多彩なシュートで対抗、前半を2点差で終了した。前日の日本代表との僅差を持続してのプレーであった。

後半、スロバキア大型ポストのシュートをGK今野の果敢なセービングからの速攻により早々に同点となる。その後、アグレッシブなディフェンスがスロバキアの強引なプレーからの反則を誘い、日本リーグ選抜のペースとなった。

スロバキア・アクロメーヴァの負傷退場により強引なプレーがでてきたが、日本リーグ選抜は、マンツーを続け、スロバキアのオフェンスを寸断、速攻の連続で、終始優位に進め6点差で終了、見事勝利を得た。

この試合の優秀選手は、スロバキア・アクロメーヴァ選手、日本リーグ選抜・今野選手。

日本リーグ選抜 35（15—11、20—6）17 日本U—23

［リーグ選抜］得点	氏名	番号	［U—23］番号	氏名	得点
0	今野	1	1	細谷	0
0	林	2	2	岡野	3
3	田口	4	3	橋詰	2
8	金	5	4	板谷	1
2	和田	6	5	伊藤	0
2	呉	7	6	村上	0
3	崔	8	7	大石	3
2	宋	9	8	村瀬	3
4	後藤	10	9	金城	1
1	加藤	11	10	坂本	2
0	安田	16	11	藤田	0
1	佐藤	13	12	倉	0
4	佐久川	14	13	早川	1
5	巽	15	14	山田	1
			15	中後	0
			16	田中	0
35	計				17

渡辺・楓

逆転優勝をねらい気合い十分の日本リーグ選抜は、立ち上がりから元気のないU—23を攻守で圧倒した。金、宋らの韓国人選手に加え、日本人選手も活躍、14番佐久川の速攻、サイド、10番後藤のポストなどで大きくリードした。U—23も7番大石が果敢に打って出て、8番村瀬のポストで攻めるが、ミスを相手の速攻につなげられるなど、自分たちのペースをつかめなかった。

後半に入ると、U—23も2番岡野、4番板谷のリードから持ち前のスピードある攻撃を展開したが、最後まで日本リーグ選抜のポスト攻撃、フェイントを守りきれず、追いつくことはできなかった。日本リーグ選抜は、15番巽のサイドプレーなど、これまでと違う盛り上がりを見せ、日本リーグ選抜が力の差を見せつけた。U—23は立ち上がりの元気のなさが非常に残念な試合であった。

優秀選手は、日本リーグ選抜・金選手、U—23・岡野選手。

日本ナショナル 26（14—13、12—13）26 バンスカ・ビストリッツァ

［ナショナル］得点	氏名	番号	［バンスカ・ビストリッツァ］番号	氏名	得点
5	沖土居	2	2	オストルカ	0
0	宮本	3	4	マリンコヴァ	1
0	松本	4	5	ラビノヴァ	1
0	小林	5	6	ヒリチャナ	1
0	青戸	6	7	サログブ	4
6	小松	7	8	ヴァルコヴァ	0
8	田中	8	10	オボリオヴァ	7
2	田中	9	13	サティコヴァ	5
1	田中	10	14	オツイマ	1
2	中村	11	15	アクロメーヴァ	6
0	山口	12	16	ロマノヴァ	0
0	池田	13			
0	倉知	14			
2	藤浦	15			
0	山下	16			
0	熊谷	17			
26	計				26

仲田・植村

ジャパンカップ優勝をかけた最終戦、日本代表は、よく足の動く組織された1—2—3プレスDFで、スロバキアチームの攻撃を防ぎ、8番田中美音子、15番藤浦、7番小松らの速攻でゲームを優位に進めた。しかし、スロバキアもディフェンスの間や上から10番オボリオヴァ、15番アクロメーヴァの強力なシュートで応戦した。スロバキアGKロマノヴァがノーマークシュートを防ぐなど、前半残り10分を1点におさえて前半は1点差でスロバキアがリードした。

後半も互角の展開、日本代表のDFは足がとまらず、スロバキアのミスを誘い、小松、沖土居らのスピードプレーで加点、スロバキアもオボリオヴァのシュートで点を重ねていった。残り5分、24—24から両チームとも必死の攻防を見せ、残り1分7秒、日本代表・田中美音子のステップシュートで26—25、試合は決まったかと思われたが、残り27秒、スロバキア・アクロメーヴァの高い打点からのロングシュートが決まり、同点。日本代表はタイムアウトをとり、1点を目指したが及ばず、26—26で終了し、日本代表がジャパンカップ優勝を飾った。

優秀選手は、スロバキア・オボリオヴァ選手、日本代表・小松選手。

ジャパンカップサイドストーリー

'98ジャパンカップを終えて

'98ジャパンカップ運営委員会委員　角　紘昭

'98ジャパンカップの話があったとき、すでに、全日本学生選手権大会の日程が決まっており、同じ時期に全国大会、国際大会の二つを開催することに、協会内では危惧する声も少なくなかった。

しかし、愛知県ハンドボール協会創立50周年記念事業としてイベントを模索していたところで、'98ジャパンカップは最適な記念事業と考え、愛知県協会で引き受けることになった。この大会を開催するために、日本協会との打ち合わせを中心とした準備委員会を5回、具体的な係りの打ち合わせも含めた運営委員会を10数回開催し本大会をむかえた。ここでは、この大会を実施した感想を簡単に述べ、報告としたい。

1　二つのビッグイベントを開催するについて

'98ジャパンカップ、全日本学生選手権大会の二つを同時期に開催することは、一地方協会としては不可能に近いことである。幸い東海・愛知学生連盟は非常に組織力があり、ほとんど独自で全国大会の運営、実施を行うことが可能であった。そのため、全日本学生選手権大会については、県協会は連絡調整役のみでよかったことが同時期開催を可能にした大きな要因である。

その上、U—23が学生中心で、ジャパンカップへ連続して参加するための移動がなくスムーズに参加できる利点があった。

さらに、日頃から、東海・愛知学生連盟と愛知県協会とは、意志の疎通が十二分に図られており、調整がつき易かった。そのため、学生選手権の最終日とジャパンカップの初日をわずか1時間の程度の間で同じ会場で開催でき、両大会のいっそうの盛り上がりを演出できた。

2　外国チームを招聘するについて

このことについては、日本協会の専決事項であることは十二分に承知をしていることである。今回のオーストラリアナショナルチーム、スロバキアチームを招聘するにあたって強化事業本部を中心に表には出ないご苦労をされたことを述べておきたい。

オーストラリアナショナルチームは準備の途中でメンバーが揃わず来日できないとの連絡をよこしたり、スロバキアチームもヨーロッパでの大会があるため、途中で来日に難色を示したりした。そのたびに強化事業本部の野田氏を中心に強硬に大会参加を勧めた。その結果、オーストラリアナショナルチームはメンバーが不十分ながらも来日が決まり、スロバキアチームも大会初日の真夜中に到着することが大会直前に決まったのである。

その間の強化事業本部の方々の苦労は察するに余りあったが、大会運営委員会のメンバーも、大会スケジュール決定やプログラム印刷等々の作業をストップさせ、事態の推移をハラハラしながら見守っていたのであった。

このような出来事を通して、

・日本のシーズンと世界のシーズンがずれていること。そのためにお互いにテストマッチがベストの状態で戦えるようにはなりにくいこと

・世界のハンドボール界にとっては極東の日本が世界から距離的にも、勢力的にも遠い存在であること

・日本にとって国際試合海外遠征の必要性と同時に、その困難性

など普段気がつかないことがわかってきた。



3　その他感じたこと

・当初、この大会は、アジア大会兼世界選手権大会アジア予選会の壮行会を兼ねた大会のはずであった。しかし、突然の世界選手権大会アジア予選会繰り上げ実施で、結果が分かってしまってからの、ジャパンカップであったためやや盛り上がりに欠けたことは否めなかった。図らずも、世界の潮流の厳しさと我々の常識では想像もつかない現実を知らされたのである。

・大会運営費については、昨年同様に、財源の大半を広告料で予定していたが、8月になってからの急激な不景気により目標に達しなかったため関係者の悩みの原因となった。財政基盤の強化と、ハンドボールゲームが観客を集める魅力を持つ必要性を痛切に感じた。

・招聘するチームの選考等から、ヨーロッパを中心に日本協会の情報ネットワークをより細かく、太くしていく必要があることを感じた。

第7回JOCジュニアオリンピックカップに寄せて

全国中体連中国ブロック専門委員長　**中谷幸生**（岡山市立操南中学校）
全国中体連九州ブロック専門委員長　**長尾明徳**（大分市立東陽中学校）

将来のオリンピック選手をめざし、全国各ブロックの精鋭が集まるこの大会も、第7回を数えることになりました。今年もまた、各ブロックを勝ち抜き出場を果たしたチームは、その名にふさわしく、個人として能力の高い選手も数多く、男女とも予選リーグから実力伯仲の好ゲームの連続でした。

男子の部

夏の全国大会出場のチームに補強を加え、チーム力よりも個々の運動技能、スピード、テクニックと選抜ならではの見所の多い大会となりました。また、そういう意味では全国大会を経験していない選手も県選抜として大舞台に立つことができたと思います。特に九州ブロックでは長崎選抜が沖縄、熊本に競い勝って、激戦区の代表として出場しています。パスワーク、スピード、振り返しのコンビネーションの組み合わせで相手を翻弄し、小粒ながら見応えのあるチームでした。茨城選抜、山口選抜はオーソドックスなチーム作りをしており、福島選抜は個人技と能力に光るものが見られ、いずれにしても大型パワフルヒッターやジャンプ力、走力を備えた将来性のある選手がどのチームにも存在していました。決勝は、やはり夏の再来で、夏の優勝を遂げた市岡東中を主体とした大阪選抜と、2位高杉中、3位八幡中の2チームを中心とした愛知選抜との戦いになりました。1点を争う好ゲーム、力と力、技と技のぶつかりあいとなり、愛知選抜が夏の雪辱を果たす結果となりました。

女子の部

個々の能力の高さだけでなく、チームとしてよく鍛えられまとまりのあるチームが多くなりました。また、年を追うごとに各ブロックの差が縮まってきていることを感じさせます。そのため、準決勝、決勝もさることながら、予選各ブロックの試合も見応えのある接戦が多くありました。特に山口選抜は、2番板野選手を中心に最後まで大阪選抜を苦しめました。また、夏の全国大会では1回戦で敗れた兵庫県が選抜チームとして粘り強い試合で予選リーグを突破し、準決勝に進出したのも印象的でした。夏の全国大会で優勝した羽津中を中心とする三重選抜、惜しくも1点差に泣いた明野中を中心とした大分選抜、地元代表として夏の雪辱に燃える大阪選抜の各チームとも前評判どおり決勝トーナメントに進出をし、精神的にもよく鍛えられていることを感じさせます。優勝した大阪選抜は、堅い守りに加え、中学生ばなれした力強いシュート力、鋭いたてへの突っ込みを武器に安定感ある試合運びでした。特に2番の花岡選手は小柄ながら闘志あふれるプレーが光りました。惜しくも準優勝に終わった三重選抜は粘り強い個々の連携の取れた守り、フォーメーションを多用した攻撃に全員ハンドの姿を見ることができました。

今大会を振り返ってみると、攻撃力はもちろんですが、勝負の明暗をわけたのはGKも含めたディフェンス力であったような気がします。また、1対1の力の向上がチーム力を大きく左右しているようです。1＋1が2にも3にもなる、そんな可能性を見せてくれた大会であったと思います。



（スポーツイベント紙）

最終順位

◎男子
優　勝　愛知県選抜
準優勝　大阪府選抜
第3位　茨城県選抜
第3位　埼玉県選抜

◎女子
優　勝　大阪府選抜
準優勝　三重県選抜
第3位　兵庫県選抜
第3位　大分県選抜

表彰選手

◎男子

〈オリンピック有望選手〉

地引貴志（茨城県けやき台中）

門山哲也（埼玉県吉川南中）

〈最優秀選手〉

小島康次（大阪府市岡東中）

〈優秀選手〉

久保宮大（茨城県けやき台中）・山田真太郎（福島県石川中）・榎本貴康（埼玉県蓮田中）・岸本彬伸（奈良県平群中）・小川直宏（長崎県日吉中）・阿南優一（愛知県高杉中）・田畑宏一（大阪府市岡東中）

◎女子

〈オリンピック有望選手〉

板野志保（山口県住吉中）

〈最優秀選手〉

花岡智子（大阪府大正東中）

〈優秀選手〉

塩川聡子（山口県下松中）・伊藤瞳（大分県鶴崎中）・樋口真央（兵庫県大蔵中）・上柳親子（大阪府大正東中）・仲尾恵美子（大阪府住吉第二）・伊藤亜衣美（三重県北勢中）・山本菜津（三重県羽津中）

第7回JOCジュニアオリンピックカップ試合結果

男子

▼予選リーグ

Aブロック

チーム	得点	前半 後半	得点	チーム
愛知県	19	7－ 8 12－ 8	16	長崎県
長崎県	27	14－ 9 13－10	19	福島県
愛知県	26	11－10 15－ 7	17	福島県

Bブロック

チーム	得点	前半 後半	得点	チーム
茨城県	22	9－ 8 13－11	19	山口県
山口県	23	9－11 14－10	21	奈良県
茨城県	29	15－11 14－ 7	18	奈良県

Cブロック

チーム	得点	前半 後半	得点	チーム
埼玉県	28	16－ 8 12－10	18	石川県
石川県	15	9－ 5 6－10	15	香川県
埼玉県	31	17－ 8 14－ 8	16	香川県

Dブロック

チーム	得点	前半 後半	得点	チーム
大阪府	30	14－ 5 16－ 8	13	北海道
岐阜県	22	12－ 5 10－ 4	9	北海道
大阪府	22	12－ 7 10－11	18	岐阜県

▼決勝トーナメント

	チーム	得点	前半 後半	得点	チーム
準決勝	愛知県	19	7－ 7 12－ 8	15	茨城県
準決勝	大阪府	20	12－ 9 8－ 6	15	埼玉県
決勝	愛知県	16	7－ 6 9－ 8	14	大阪府

女子

▼予選リーグ

Aブロック

チーム	得点	前半 後半	得点	チーム
三重県	11	8－ 5 3－ 3	8	岩手県
富山県	18	9－ 5 9－ 5	10	岩手県
三重県	16	8－ 3 8－ 4	7	富山県

Bブロック

チーム	得点	前半 後半	得点	チーム
兵庫県	18	9－ 6 9－ 5	11	香川県
茨城県	20	9－ 5 11－ 4	9	香川県
兵庫県	18	8－ 8 10－ 8	16	茨城県

Cブロック

チーム	得点	前半 後半	得点	チーム
大阪府	18	7－ 3 11－ 9	12	愛知県
大阪府	15	9－ 9 6－ 3	12	山口県
山口県	16	6－ 6 10－ 8	14	愛知県

Dブロック

チーム	得点	前半 後半	得点	チーム
大分県	20	11－ 7 9－ 5	12	北海道
埼玉県	18	11－ 3 7－ 6	9	北海道
大分県	18	6－ 3 12－ 6	9	埼玉県

▼決勝トーナメント

	チーム	得点	前半 後半	得点	チーム
準決勝	三重県	11	6－ 5 5－ 4	9	兵庫県
準決勝	大阪府	17	8－ 7 9－ 8	15	大分県
決勝	大阪府	11	5－ 2 6－ 3	5	三重県

列島縦断【岡山県の巻】

岡山県協会の歴史と今後の課題(1)

岡山県協会理事長　永井忠和



【その1】

1　送球連盟の時代

岡山県のハンドボールの歴史は昭和11年に岩野次郎氏が岡山県社会教育課体育主事として赴任して来られたときに始まる。同年第1回講習会が東京体育専門学校（現筑波大学）で開催されると、県社会教育課体育主事、倉敷高等女学校（現倉敷青陵高校）教諭、落合高等女学校（現落合高校）教諭の3名が受講された。県内ではこの受講された3名の先生により伝達講習会が開かれ、さらに岩野次郎氏も各学校に出向いて指導されるなど各先生方による積極的な普及活動が展開された。その結果、昭和12年11月28日に記念すべき第1回岡山県送球大会が開催された。残念ながら会場他、試合結果等は残っていない。昭和13年1月16日に岡山県送球連盟が創立され事務所は岡山県学事課体育協会内に置かれた。ここで創立された当時の連盟の役員の役職を列挙する。名誉会長1名、会長1名、副会長2名、幹事長1名、幹事8名、委員9名で構成され、連盟が組織的にスタートした。昭和13年4月には岡山県送球大会が2日間にわたり西大寺（現岡山市西大寺）で開催され、小学校、中学校、一般の3部門で17チームが参加した。この時期にこのような大会が開かれたことは全国でもあまり例のないことだと思う。この年も指導者講習会、巡回指導等を通じて積極的に普及活動に務めている。昭和14年4月に第2回岡山県送球大会が尋常男子・女子の部、高等女学校の部、中学校の部、一般の部が開催された。またこの年には、岡山県小学校大会、高等女学校大会、中学校大会、一般大会が開催された。さらに岡山送球連盟少年大会、岡山学童大会が岡山一女（現岡山操山高校）運動場で開催された。昭和15年は、第11回明治神宮大会女子の部で倉敷高等女学校が大激戦の末、梅花高等女学校（大阪）を破り初の全国制覇を成し遂げ「送球岡山」を全国に知らしめた。さらに県内では普及活動が実り小学校17チーム、中学校14チーム、高等女学校11チーム、一般4チームが活動し送球岡山の基礎が確立されたことは記念すべき喜ばしい年であった。県内では戦時中にもかかわらず学童大会、中学校大会が開催され、さらに高等女学校大会は、地区総体（備前、備中、美作）が開催された。



2　送球協会からハンドボール協会の時代

昭和21年シーズン開始に先だち、永井恒三郎、村山寛、谷口慶忠、永井正、成広秀雄氏の諸氏により岡山県送球協会が発足し、春の第1回中学校優勝大会が5チーム参加して倉工グランドで開催された。秋の第1回中学校選手権大会は9チームが参加して開催された。さらに3県（岡山・香川・愛媛）対抗送球大会が高松市で開催された。昭和23年に県協会が初めて他県チームに呼びかけ倉敷市制20周年記念選抜大会が開催された。特に第3回国体では天城高校のゴールキーパー村上豊選手が優秀選手に選ばれ、個人表彰を受けた。県協会の強化と普及活動の努力が実を結び、再び「送球岡山」の名が全国に知られるようになった。ここで全国大会の成績をあげておく、昭和21年第1回国体（西宮）男子倉敷工業高校第2位、女子倉敷クラブ第2位。第2回国体（金沢）男子倉敷工業高校第2位、女子倉敷高等女学校第2位。第3回国体（久留米市）男子天城高校第2位、女子倉敷精思高校（倉女・現倉敷青陵高校）第2位。第3回西日本送球選手権大会（西宮）天城高校第2位。第1回高校東西大会（一の宮）西軍代表倉敷精思高校優勝。

（次号へつづく）

13th HANDBALL GAME
女子世界選手権ビデオ

最新 世界選手権

――厳選した熱戦20試合を全収録

各試合7,000円　税・送料別（送料は何巻でも500円）

1997年11月、ハンドボール発祥の地、ドイツで熱狂の観衆のなか繰り広げられた第13回女子ハンドボール世界選手権。デンマークの優勝で幕となったが、アジアの代表として登場した日本はもちろん、韓国、中国も思いっきりの熱いプレーを見せてくれた。

そのうちの熱戦20試合が、スカイ・Aで放映されたが、そのままのクリーンな映像を、編集にあたった株式会社メイスンがハンドボールファンにお届けする。

見た人も見られなかった人も、最新のハンドボール情報を目の当たりにするチャンス。本場の熱狂を肌で感じられるだけでも興奮のビデオだ。１本からでも受け付けている。

■協賛／財団法人日本ハンドボール協会、日本ハンドボールリーグ機構　■制作協力／株式会社スポーツイベント

品番	対戦	解説	時間
◆ 予選リーグ			
WH 1	日本 vs オーストリア	池本　聡氏（ジャスコ監督）	70分
WH 2	中国 vs デンマーク	池本　聡氏（ジャスコ監督）	75分
WH 3	日本 vs ブラジル	平塚一彦氏（シャトレーゼ監督）	70分
WH 4	中国 vs チェコ	平塚一彦氏（シャトレーゼ監督）	75分
WH 5	日本 vs アンゴラ	緒方嗣雄氏（日本協会強化委員）	75分
WH 6	中国 vs ロシア	緒方嗣雄氏（日本協会強化委員）	65分
WH 7	韓国 vs ルーマニア	金原　至氏（立山アルミ監督）	70分
WH 8	日本 vs ポーランド	金原　至氏（立山アルミ監督）	70分
◆ 決勝トーナメント・1回戦			
WH 9	フランス vs ポーランド	矢内　浩氏（大崎電気女子監督）	70分
WH10	韓国 vs チェコ	矢内　浩氏（大崎電気女子監督）	70分
WH11	ルーマニア vs マケドニア	荷川取義浩氏（北國銀行監督）	110分
WH12	ドイツ vs ベラルーシ	荷川取義浩氏（北國銀行監督）	75分
WH13	デンマーク vs ハンガリー	伊藤宏幸氏（全日本女子監督）	75分
WH14	ロシア vs コートジボアール	伊藤宏幸氏（全日本女子監督）	75分
◆ 決勝トーナメント・2回戦			
WH15	ドイツ vs マケドニア	西窪勝広氏（オムロン監督）	70分
WH16	ポーランド vs ロシア	西窪勝広氏（オムロン監督）	70分
◆ 準決勝			
WH17	ドイツ vs ノルウェー	林　五卿氏（イズミ監督）	75分
◆ 5位決定戦			
WH18	韓国 vs クロアチア	林　五卿氏（イズミ監督）	90分
◆ 3位決定戦			
WH19	ドイツ vs ロシア	樫塚正一氏（前全日本女子監督）	75分
◆ 決勝			
WH20	ノルウェー vs デンマーク	樫塚正一氏（前全日本女子監督）	75分

実況アナウンス　池本弘三氏（フリー）



■支払方法

現金書留、郵便振替、または銀行振込による前払いです。まずはお電話ください。

●お問い合わせ、ご注文は

☎03-3542-2135／Fax 03-3542-2107

MAYSON Co.,LTD.　〒104-0061 東京都中央区銀座8丁目18番16号　株式会社 メイスン

IHF ニュース

●女子世界選手権　さらに10枠が決定

この週末にノルウェー（及びデンマーク）で開催される、1999年女子世界選手権のための予選が2大陸で行われた。ヨーロッパ選手権では、オランダ、ハンガリー、オーストリア、ポーランド、ドイツが3位から6位となり、スカンジナビアでの選手権の出場権を得た（ヨーロッパ・チャンピオンのノルウェーと第2位のデンマークはすでに参加が決定している）。アジア大陸からは、韓国、中国、北朝鮮、日本が代表として出場する。これらのチームはバンコクでのアジア大会で1位〜4位となり、世界選手権出場資格を得た。

よって1999年女子世界選手権の24参加国のうち14ケ国がこれまでに決定した。現在の状況は以下のとおり。

★ノルウェー女子世界選手権
（1999年11月28日〜12月12日）
世界チャンピオン：デンマーク
開催国：ノルウェー
アジア：韓国、中国、北朝鮮、日本
アフリカ：アンゴラ、コンゴ、アイボリーコースト
ヨーロッパ：ハンガリー、オーストリア、ポーランド、ドイツ（さらに7ケ国が1999年1月、3月の予選会で決定）
オセアニア：オーストラリア
パンアメリカ：（3カ国が1999年3月、アルゼンチンの選手権で決定）

●男子世界選手権　シード列が確定

1999年6月1日〜15日にエジプトで開催される男子世界選手権のすべての参加国が決定した後で、IHF・COCは選手権予選リーグの組み合わせ抽選のもととなるシード列を以下のとおり確定した。

1. ロシア、スウェーデン、スペイン、ドイツ
2. ユーゴスラビア、チュニジア、ハンガリー、韓国／サウジアラビア＊
3. フランス、クロアチア、デンマーク、エジプト
4. ノルウェー、キューバ、サウジアラビア／韓国＊、アルジェリア
5. マケドニア、ナイジェリア、中国／クウェート＊、アルゼンチン
6. オーストラリア、クウェート／中国＊、モロッコ、ブラジル

（＊アジア代表は西と東に分けて決定されており、1－2、3－4のグループは後日IHFによって確定される。）

シード列内で各チームは、A、B、C、Dに組み分けされる。1、2、4、5、6のシード列がまずくじ引きをする。開催国のエジプトは3列におり、グループを選択する権利があるので、3列内の他の3チームが残りのグループに振り分けられる。組合せ抽選会は1999年1月27日にカイロで、Peter MühlematterCOC会長によって行われる予定。抽選会に関する更なる詳細は開催国であるエジプト協会よりもまもなく発表される。

●オーストラリアも男子ジュニア大会へ

オーストラリアもオセアニア代表として1999年カイロ男子ジュニア世界選手権に参加する。ニューサウスウェールズのミッタゴングで1998年12月11、12日に開催された大陸予選で、オーストラリアは唯一の対戦者ニュージーランドに32－23、40－23で2勝した。男子、女子ナショナルチームに続き、男子ジュニアはオーストラリアにとって3番目の世界選手権出場となった。したがって、これまでにカタールでの選手権には以下の参加国が決定している。

★カタール男子ジュニア世界選手権
（1999年8月22日〜9月5日、ドーハ）
開催国：カタール
アジア：バーレーン、サウジアラビア、クウェート
アフリカ：エジプト、チュニジア、アンゴラ、アイボリーコースト
ヨーロッパ：デンマーク、ユーゴスラビア、ハンガリー、スペイン、スウェーデン（あと6ケ国が4月の予選会で決定する）
オセアニア：オーストラリア
パンアメリカ：（2カ国が3月のプエルトリコ選手権で決定）

★中国女子ジュニア世界選手権
（1999年8月1日〜15日、中国、広州）
開催国：中国
アジア：韓国、カザフスタン、日本、チャイニーズタイペイ
アフリカ：アンゴラ、コンゴ
ヨーロッパ：ルーマニア、リトアニア、ロシア、トルコ、スペイン（あと7ケ国が4月の予選会で決定）
オセアニア：（1カ国は大陸予選会で決定）
パンアメリカ：ブラジル、カナダ

●IHFとアディダスが1998年度ワールド　ハンドボールプレイヤーズ　オブ　ジ　イヤーを募集

スポーツ用品メーカー、アディダスの協賛により、ワールドハンドボールマガジンの読者及びハンドボールファンが、年間の女子男子ハンドボールプレイヤーを選ぶことは恒例になった。1998年度に最高のプレーと立派なスポーツマンシップで目立った2名の選手を選ぶものである。

原則として国際的レベルで名を挙げたすべての選手が対象となる。WHM読者及びハンドボールファンのみに決定権がある。WHM編集スタッフが自主的に数名の女子、男子選手をリストアップした。なお、候補者は以下のとおり。

【男子】
Talant Duishebaev（スペイン）
Nabil Gohar（エジプト）
Stefan Lovgren（スウェーデン）
Carlos Reinaldo Perez（キューバ）
Sergej Pogorelow（ロシア
Jackson Richardson（フランス）
Daniel Stephan（ドイツ）
Kyung－Shin Yoon（韓国）

【女子】
Anna Ejsmont（ポーランド）
Ausra Fridrikas（オーストリア）
Trine Haltvik（ノルウェー）
実な動きの選手。
Jeong－Ho Hong（韓国）
Christine Lindemann（ドイツ）
Tonje Kjaergaard（デンマーク）
Beata Siti（ハンガリー）
Valentina Radulovic（マケドニア）

投票希望の方は、ハガキに該当選手名を男子、女子別々に1名ずつ書き、下記住所まで郵送してください。

International Handball Federation
World Handball Player 1998
P.O. Box 312
CH－4020 Basel, Switzerland

国際ハンドボール連盟加盟国一覧

1998年9月現在

略字	国名	所属大陸
ALB	アルバニア	ヨーロッパ
ALG	アルジェリア	アフリカ
ANG	アンゴラ	アフリカ
ARG	アルゼンチン	パンアメリカ
ARM	アルメニア	ヨーロッパ
AUS	オーストラリア	オセアニア
AUT	オーストリア	ヨーロッパ
AZE	アゼルバイジャン	ヨーロッパ
BAN	バングラデシュ	アジア
BDI	ブルンディ	アフリカ
BEL	ベルギー	ヨーロッパ
BEN	ベニン	アフリカ
BIH	ボスニアヘルツェゴビナ	ヨーロッパ
BLR	ベラルーシ	ヨーロッパ
BRA	ブラジル	パンアメリカ
BRN	バーレーン	アジア
BUL	ブルガリア	ヨーロッパ
BUR	ブルキナファソ	アフリカ
CAF	中央アフリカ	アフリカ
CAN	カナダ	パンアメリカ
CGO	コンゴ	アフリカ
CHA	チャド	アフリカ
CHI	チリ	パンアメリカ
CHN	中国	アジア
CIV	コートジボワール	アフリカ
CMR	カメルーン	アフリカ
COD	コンゴ民主共和国	アフリカ
COL	コロンビア	パンアメリカ
COM	コモロ	アフリカ
CPV	カボヴェルデ	アフリカ
CRC	コスタリカ	パンアメリカ
CRO	クロアチア	ヨーロッパ
CUB	キューバ	パンアメリカ
CYP	キプロス	ヨーロッパ
CZE	チェコ	ヨーロッパ
DEN	デンマーク	ヨーロッパ
DJI	ジブチ	アフリカ
DOM	ドミニカ	パンアメリカ
EGY	エジプト	アフリカ
ESP	スペイン	ヨーロッパ
EST	エストニア	ヨーロッパ
ETH	エチオピア	アフリカ
FAR	フェロー諸島	ヨーロッパ
FIN	フィンランド	ヨーロッパ
FRA	フランス	ヨーロッパ
GAB	ガボン	アフリカ
GAM	ガンビア	アフリカ
GBR	英国	ヨーロッパ
GBS	ギニア-ビサウ	アフリカ
GEO	グルジア	ヨーロッパ
GER	ドイツ	ヨーロッパ
GHA	ガーナ	アフリカ
GRE	ギリシャ	ヨーロッパ
GRL	グリーンランド	パンアメリカ
GUA	グアテマラ	パンアメリカ
GUI	ギニア	アフリカ
HKG	香港	アジア
HON	ホンジュラス	パンアメリカ
HUN	ハンガリー	ヨーロッパ
IND	インド	アジア
IRI	イラン	アジア
IRL	アイルランド	ヨーロッパ
IRQ	イラク	アジア
ISL	アイスランド	ヨーロッパ
ISR	イスラエル	ヨーロッパ
ITA	イタリア	ヨーロッパ
JOR	ヨルダン	アジア
JPN	日本	アジア
KAZ	カザフスタン	アジア
KEN	ケニヤ	アフリカ
KGZ	キルギスタン	アジア
KOR	韓国	アジア

略字	国名	所属大陸
KSA	サウジアラビア	アジア
KUW	クウェート	アジア
LAT	ラトビア	ヨーロッパ
LBA	リビア	アフリカ
LIB	レバノン	アジア
LIE	リヒテンシュタイン	ヨーロッパ
LTU	リトアニア	ヨーロッパ
LUX	ルクセンブルグ	ヨーロッパ
MAC	マカオ	アジア
MAD	マダガスカル	アフリカ
MAR	モロッコ	アフリカ
MAS	マレーシア	アジア
MDA	モルダビア	ヨーロッパ
MEX	メキシコ	パンアメリカ
MKD	旧ユーゴマケドニア	ヨーロッパ
MLI	マリ	アフリカ
MLT	マルタ	ヨーロッパ
MOZ	モザンビーク	アフリカ
MRI	モーリシャス	アフリカ
MTN	モーリタニア	アフリカ
NAM	ナミビア	アフリカ
NCR	ニカラグア	パンアメリカ
NED	オランダ	ヨーロッパ
NEP	ネパール	アジア
NGR	ナイジェリア	アフリカ
NIG	ニジェール	アフリカ
NOR	ノルウェー	ヨーロッパ
NZL	ニュージーランド	オセアニア
OMA	オマーン	アジア
PAK	パキスタン	アジア
PAN	パナマ	パンアメリカ
PAR	パラグアイ	パンアメリカ
PHI	フィリピン	アジア
PLE	パレスチナ	アジア
POL	ポーランド	ヨーロッパ
POR	ポルトガル	ヨーロッパ
PRK	北朝鮮	アジア
PUR	プエルトリコ	パンアメリカ
QAT	カタール	アジア
ROM	ルーマニア	ヨーロッパ
RSA	南アフリカ	アフリカ
RUS	ロシア	ヨーロッパ
RWA	ルワンダ	アフリカ
SAM	西サモア	オセアニア
SEN	セネガル	アフリカ
SLE	シエラレオネ	アフリカ
SLO	スロベニア	ヨーロッパ
SOM	ソマリア	アフリカ
STP	サントーメプリシペ	アフリカ
SUD	スーダン	アフリカ
SUI	スイス	ヨーロッパ
SVK	スロバキア	ヨーロッパ
SWE	スウェーデン	ヨーロッパ
SYR	シリア	アジア
TAN	タンザニア	アフリカ
THA	タイ	アジア
TKM	トルクメニスタン	アジア
TOG	トーゴ	アフリカ
TPE	台湾	アジア
TUN	チュニジア	アフリカ
TUR	トルコ	ヨーロッパ
UAE	アラブ首長国連邦	アジア
UGA	ウガンダ	アフリカ
UKR	ウクライナ	ヨーロッパ
URU	ウルグアイ	パンアメリカ
USA	米国	パンアメリカ
UZB	ウズベキスタン	アジア
VAN	バヌアツ	オセアニア
YEM	イエメン	アジア
YUG	ユーゴスラビア	ヨーロッパ
ZIM	ジンバブエ	アフリカ

計143ヶ国

平成10年度　登録一覧表

1998.11.12 現在

	県名	一般L		一般A		学生		高専		高校		中学		小学生		リージョナル		合計	
		チーム数	人数	チーム数	人数	チーム数	人数	チーム数	人数	チーム数	人数	チーム数	人数	チーム数	人数	チーム数	人数	チーム数	人数
1	北海道	0	0	27	334	25	356	1	19	60	966	16	276	3	55	10	145	142	2151
2	青　森	0	0	12	190	5	54	1	20	24	384	2	42	0	0	0	0	44	690
3	岩　手	0	0	12	193	5	61	1	24	44	922	26	733	0	0	15	213	103	2146
4	宮　城	0	0	9	104	10	188	2	45	51	994	20	466	0	0	1	21	93	1818
5	秋　田	0	0	6	94	2	22	1	22	12	264	4	99	0	0	1	11	26	512
6	山　形	0	0	6	91	1	20	0	0	19	325	4	70	0	0	1	12	31	518
7	福　島	1	17	7	93	3	38	0	0	37	589	15	360	0	0	0	0	63	1097
8	茨　城	0	0	11	171	4	56	0	0	70	964	40	1008	5	105	11	144	141	2448
9	栃　木	1	18	7	90	1	16	0	0	20	1421	19	418	0	0	1	12	49	1975
10	群　馬	0	0	8	123	1	13	0	0	21	345	19	454	0	0	1	10	50	945
11	埼　玉	2	38	21	323	8	81	0	0	108	1590	24	680	1	13	0	0	164	2725
12	千　葉	0	0	12	187	9	153	0	0	64	914	32	497	4	65	14	206	135	2022
13	東　京	3	49	19	345	38	632	2	29	158	1677	5	38	1	17	48	930	274	3717
14	神奈川	0	0	16	245	8	114	0	0	158	2314	71	984	0	0	34	553	287	4210
15	山　梨	1	22	7	122	5	78	0	0	30	530	21	389	2	55	9	130	75	1326
16	長　野	0	0	6	75	3	42	1	15	12	241	0	0	0	0	0	0	22	373
17	新　潟	0	0	9	125	4	71	0	0	29	418	3	58	0	0	0	0	45	672
18	富　山	1	21	9	119	4	51	1	12	35	533	0	0	0	0	0	0	50	736
19	石　川	1	20	7	131	3	44	1	13	26	423	28	822	0	0	1	11	67	1464
20	福　井	1	16	6	74	3	43	1	18	20	365	7	224	6	86	0	0	44	826
21	静　岡	0	0	14	187	4	46	1	15	46	1012	5	217	0	0	1	12	71	1489
22	愛　知	5	91	16	231	24	451	1	34	264	4913	179	4182	3	101	42	484	534	10487
23	三　重	2	31	13	185	2	23	2	31	36	501	9	171	4	75	0	0	68	1017
24	岐　阜	0	0	19	281	6	74	1	22	63	1094	55	1197	0	0	0	0	144	2668
25	滋　賀	0	0	8	113	4	48	0	0	23	447	0	0	0	0	0	0	35	608
26	京　都	0	0	11	167	13	153	1	13	43	607	0	0	0	0	22	227	90	1167
27	大　阪	4	57	12	185	29	390	1	11	138	1542	29	441	0	0	2	25	215	2651
28	兵　庫	0	0	11	150	15	178	1	15	99	1487	30	825	3	42	4	58	163	2755
29	奈　良	0	0	7	96	6	82	1	20	28	457	0	0	0	0	0	0	42	655
30	和歌山	0	0	9	115	2	21	1	22	25	361	18	434	0	0	2	12	57	965
31	鳥　取	0	0	4	61	1	19	1	27	14	247	6	125	0	0	0	0	26	479
32	島　根	0	0	3	42	1	16	1	13	9	158	0	0	1	20	0	0	15	249
33	岡　山	0	0	15	201	7	94	1	13	56	1015	14	333	3	55	1	16	97	1727
34	広　島	3	48	5	86	6	94	1	9	22	330	5	100	1	27	4	59	47	753
35	山　口	1	20	15	212	1	15	0	0	35	706	9	227	0	0	1	16	62	1196
36	香　川	0	0	4	69	5	51	0	0	26	425	26	523	2	36	0	0	63	1104
37	徳　島	0	0	2	20	4	45	0	0	10	136	0	0	0	0	0	0	16	201
38	愛　媛	0	0	7	111	3	47	0	0	36	697	0	0	0	0	0	0	46	855
39	高　知	0	0	5	81	3	26	1	20	17	208	11	166	0	0	2	23	39	524
40	福　岡	0	0	10	147	16	308	2	48	53	944	22	448	0	0	0	0	103	1895
41	佐　賀	1	16	4	58	0	0	0	0	11	167	3	84	4	98	0	0	23	423
42	長　崎	0	0	6	108	2	21	0	0	31	676	20	468	2	31	0	0	61	1304
43	熊　本	2	37	4	78	4	51	2	28	50	1148	37	716	12	302	11	164	122	2524
44	大　分	0	0	5	65	2	15	0	0	20	303	7	134	16	211	1	18	51	746
45	宮　崎	0	0	4	48	2	25	1	21	35	563	16	282	8	106	5	76	71	1121
46	鹿児島	1	14	6	85	3	40	1	15	36	570	12	244	2	28	7	99	68	1095
47	沖　縄	0	0	10	164	6	85	0	0	64	1149	51	1219	11	189	15	234	157	3040
合計		30	515	446	6575	313	4551	33	594	2288	38042	920	20154	94	1717	267	3921	4391	76069

全日本実業団ハンドボールチャレンジ'99 大会要項

（高松宮杯第40回全日本実業団ハンドボール選手権大会予選）

1．主　　催　（財）日本ハンドボール協会、全日本実業団ハンドボール連盟
2．共　　催　岩国市教育委員会、岩国市体育協会、岩国市ハンドボール協会
3．主　　管　山口県ハンドボール協会、山口県実業団ハンドボール連盟
4．後　　援　山口県教育委員会、（財）山口県体育協会
5．期　　日　平成11年2月13日（土）～平成11年2月15日（月）・3日間
6．会　　場　●岩国市総合体育館
　住所：岩国市平田1丁目40－1　TEL：0827－32－7411　※使用期間　2月13・14・15日
　●三井化学体育館（三井石油化学工業（株）岩国大竹工場20周年記念体育館）
　住所：玖珂郡和木町和木6丁目1－2　TEL：08275－3－9010　※使用期間　2月13・14・15日
　●岩国商業高等学校体育館
　住所：岩国市平田5丁目52－10　TEL：0827－31－4133　※使用期間　2月13・14日
7．参加資格　全日本実業団ハンドボール連盟平成10年度C登録以上でブロック担当理事推薦チーム。
　（日本ハンドボール協会A登録、個人登録）
8．参加人員　役員・監督4名、選手16名（内試合出場は14名）
　登録後のメンバー変更は認めない。
9．競技方法　男子：トーナメント方式、女子：リーグ戦方式により順位を決定する。
10．競技規則　平成10年度（財）日本ハンドボール協会競技規則による。
　試合時間については、男子1・2回戦と順位決定戦は25－10－25、3回戦以降は、30－10－30、決しない時は、第一延長のちPTC。
　決勝は第一延長、第二延長を行い、同点の時は両者優勝とする。
　女子は全て25－10－25で行う。
11．組合せ　全日本実業団ハンドボール連盟の責任抽選とする。
12．試合球　日本ハンドボール連盟公認球
13．表　　彰　（1）上位3チームを表彰する。
　（2）個人表彰、全日本実業団ハンドボールトーナメント大会及びチャレンジ大会にメンバーとして下記の年数を登録された選手。
　　▶男子：10年　20年　25年　　▶女子：5年　10年
　　参加申込時に書類にて申請のこと。
14．開会式及び諸会議　日時・平成11年2月12日（金）16時～
　場所・岩国国際観光ホテル
　　〒741－0062　岩国市岩国1丁目1－7
　　TEL：0827－43－1111　FAX：0827－41－2483
　17：00～審判会議
　17：30～代表者会議（監督、主将）
　18：00～開会式（監督、主将、功労賞受賞者）
　18：30～懇親会（役員、審判員、希望者）
15．その他　（1）来年度は、全日本実業団ハンドボール選手権大会が40回目を迎え記念大会とします。
　その為、男子上位8チーム・女子6チームは選手権大会への出場権を得る。
　（2）本大会運営にあたり、事故防止には十分配慮しますが、万一不幸にして事故が発生したときは、応急処置のみを実施し、以後の責任は負いかねます。
　（3）参加者は必ず保険証を持参すること。
　（4）ユニフォームは2色用意すること。
　　（GKのユニフォームはFPのものとは異なること。）
　（5）体育館での松ヤニ使用は禁止、両面テープのみ可。
　（6）三井化学会場は危険物製造工場の為、企業側の指導に従い、指定場所以外は禁煙及び立入禁止を厳守願います。

2月の行事予定

全日本実業団チャレンジ'99
2月13日～15日／山口県・岩国
西日本中国ブロック小学生ハンドボール大会
2月10日／岡山県

日本リーグ(1部)
2月6日(土)
(男子)中村荷役×日新製鋼(神奈川)
(男子)OSAKI OSOL×トヨタ車体(埼玉)
(女子)OSAKI OSOL×北国銀行(埼玉)
(男子)本田技研×三陽商会(熊本)
(女子)オムロン×イズミ(熊本)
2月7日(日)
(男子)大同特殊鋼×湧永製薬(福岡)
(女子)日立栃木×立山アルミ(栃木)
(女子)大和銀行×シャトレーゼ(大阪)
2月18日(木)
(女子)イズミ×日立栃木(広島)
2月20日(土)
(男子)トヨタ車体×三陽商会(愛知)
(男子)本田技研×大同特殊鋼(三重)
(女子)シャトレーゼ×オムロン(山梨)
2月21日(日)
(男子)日新製鋼×OSAKI OSOL(広島)
(男子)湧永製薬×中村荷役 (広島)
(女子)立山アルミ×OSAKI OSOL(石川)
(女子)北国銀行×大和銀行(石川)
2月26日(金)
(男子)三陽商会×大同特殊鋼(東京)
2月27日(土)
(男子)中村荷役×本田技研(東京)
(女子)日立栃木×シャトレーゼ(東京)
(男子)OSAKI OSOL×湧永製薬(埼玉)
(女子)OSAKI OSOL×イズミ(埼玉)
(女子)大和銀行×オムロン(奈良)
2月28日(日)
(男子)トヨタ車体×日新製鋼(愛知)
(女子)北国銀行×立山アルミ(石川)

求職情報

私のゴールキーパー及びコーチとしての資格について述べさせてください。私はJETプログラム（日本交換指導）の知識があり、1992年よりプレイヤーとして、現在はコーチとして働いています。子供を指導した経験もあります。
私はロシアのウラジオストックで生まれ、貴国のこと、文化について良く知っています。私はロシア語とフランス語を話し、妻はロシア語、フランス語、英語を話し、日本語にも興味を持っています。私は貴国で、クラブの選手として、または経験を生かせる仕事を探しています。
私の履歴書に興味をお持ちでしたら、フランス(電話／ファックス：33-0-281-52-5186)までご連絡ください。

イゴール・チュマック
オリンピックチャンピオン

―― 履　歴 ――

1964年4月1日ロシア出身
国籍：ロシア
住所：12, rue des Flandres 25000 Besancon, France
電話／ファックス：33-0-281-52-5186
1986－1992　ロシア,Krasnodar大学,体育学部,ハンドボールコーチ資格取得
1984－1992　SKIF,Krasnodar及びDynado,Astrahanクラブ ゴールキーパー,旧ソ連ナショナルチームメンバー
1988　ソウル・オリンピック・チャンピオン
1992　バルセロナ・オリンピック・チャンピオン
1992　モンペリエ「MHB」クラブ・ゴールキーパー
1995　フランスチャンピオン
1996－1998　2部リーグBesanconクラブ,ゴールキーパー及びコーチ
身長：196cm　体重：118kg　言語：ロシア語,フランス語
既婚,子供二人,妻（陸上コーチ,身体障害者のためのジャーナリスト,ドクター）

訂正とお詫び

機関紙No.392（1998.12月）号の32ページ、高橋氏と北井氏の訃報記事のなかで、ご逝去の日付が、10月4日、10月2日となっておりますが、11月4日、11月2日の誤りでした。お詫びとともに訂正いたします。

'99TVKハンドボール放送予定

開催日	対戦カード	試合会場	開始	放送予定	解説者	形式
2／21(日)	日新製鋼VS大崎電気 湧永製薬VS中村荷役	東区スポーツセンター(広島)	13:00 14:40	16:35～18:00 18:30～20:00	酒巻清治 蒲生晴明	録画 録画
2／27(土)	日立栃木VSシャトレーゼ(女子) 中村荷役VS本田技研	東京体育館(東京)	13:30 15:00	18:30～20:00 20:00～21:30	緒方嗣雄 西山　清	録画 録画

HAND BALL CONTENTS FEBRUARY

（財）日本ハンドボール協会編　『ハンドボール』　第三九三号
昭和四十年六月七日　第三種郵便物認可
平成十一年二月二十六日印刷　平成十一年三月一日発行
東京都渋谷区神南一－一－一
電話　代表　三四八一－二三六一
振替　〇〇一二〇－七－一〇二九三
編集兼発行人　市原則之
価格は登録金に含む